

2025 年度あゆみ業績

消化器

—論文—

1. Tsumura N, Kato K, Yasuda R, Yoshioka S, Takedatsu H, Mizuochi T. Long-Term Response Durability of Infliximab for Pediatric Inflammatory Bowel Disease in Japan: A Single Center Experience. *Pediatr Gastroenterol Hepatol Nutr*. 2025 May;28(3):166-175.
2. Mizuochi T, Abukawa D, Inui A, Azuma Y, Suzuki T, Yagi H, Kumagai H, Mushiake S, Tokuhara D, Tsumura N, Kato K, Tanaka Y, Tajiri H. Efficacy and Safety of Glecaprevir/Pibrentasvir in Children Aged 3-11 Years With Chronic Hepatitis C: A Real-World, Prospective, Multicenter Study in Japan. *Hepatol Res*. 2025 Nov;55(11):1437-1444.
3. Nambu R, Iwama I, Takeuchi I, Hagiwara S, Etani Y, Kaji E, Yoden A, Kakuta F, Hoshi Y, Tsumura N, Mizuochi T, Kumagai H, Yokoyama K, Nishizawa T, Usami M, Takaki Y, Ebana R, Kurasawa S, Fujikawa H, Ishige T, Kudo T, Yoshida M, Shimizu H, Arai K. Real-world Outcomes of Ustekinumab, Vedolizumab, and Tumor Necrosis Factor Inhibitors in Very Early Onset Inflammatory Bowel Disease: A Multicenter Cohort Study. *J Gastroenterol*. (in press)
4. Nambu R, Naito T, Haruyama M, Hosokawa J, Shimizu H, Takeuchi I, Hagiwara SI, Mizuochi T, Takaki Y, Ishige T, Nishizawa T, Kudo T, Ito N, Kawai Y, Kakuta Y, Nagasaki M, Shimizu T, Iwama I, Arai K. Orofacial granulomatosis in pediatric Crohn's disease: clinical outcomes and genetic background in the era of biologics: a retrospective study in Japan. *Intest Res*. (in press)
5. Shimizu H, Nambu R, Tachibana N, Kunisaki R, Kudo T, Kato S, Mizuochi T, Kumagai H, Inoue M, Iwata N, Saito T, Ishige T, Yodoshi T, Noguchi A, Nishimata S, Mochizuki T, Hagiwara SI, Sasaki M, Tajiri H, Kakuta F, Hiejima E, Iwama I, Hirano Y, Shimizu T, Arai K. Growth impairment in Japanese children with inflammatory bowel disease: A multicenter prospective cohort study. *J Pediatr Gastroenterol Nutr*. 2025 Nov;81(5):1216-1226.
6. Miyazawa A, Nambu R, Shimizu H, Kudo T, Nishizawa T, Kumagai H, Hagiwara SI, Kaji E, Mizuochi T, Kurasawa S, Kakuta F, Ishige T, Shimizu T, Iwama I, Arai K. Long-Term Course and Prognostic Factors in Pediatric Ulcerative Proctitis: A Multicenter Cohort Study. *Inflamm Bowel Dis*. 2025 Jul 7;31(7):1902-1909.
7. 宮城裕典, 井手水紀, 日吉祐介, 田中征治, 水落建輝, 橋川恵子, 西小森隆太. SLEに蛋白漏出性胃腸症 (PLE)を併発するLUPLEを発症した小児の一例. *小児リウマチ* 15巻1号 Page43-48 (2025.03).
8. 三原勇太郎, 阿水利沙, 草野弘宣, 水本 洋, 水落建輝, 鹿毛政義, 村山 圭. 遺伝子解析で診断に至った新生児期発症Niemann-Pick病C型の1例. *診断病理* 42巻1号 Page58-64 (2025.01).

—著書・総説—

1. 水落建輝. 治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 ウィルソン病. *日本医事新報* 5292号 Page27-28 (2025.09).
2. 津村直弥, 升井大介, 水落建輝. 【外来診療・診断のピットフォール】代表的な疾患のピットフォール 消化器系・腹部疾患 便秘による腹痛だと思ったら卵巣捻転. *小児内科* 57巻4号 Page474-476 (2025.04).
3. 津村直弥, 水落建輝. 【小児の下痢をもっと知ろう!】下痢を呈するおもな疾患 乳児難治性下痢症. *小児科診療* 88巻5号 Page583-586 (2025.05).

－特別講演・教育講演・シンポジウム・セミナー－

－国内学会・研究会

1. 水落建輝. 特別講演 こどものおなかの病気を科学する. 第97回日本小児科学会宮崎地方会. 2025.2.2 (宮崎)
2. 水落建輝. 特別講演 こどものおなかの病気を科学する. 第164回熊本小児科学会. 2025.2.9 (熊本)
3. 水落建輝. 特別講演 こどものおなかの病気を科学する. 第121回日本小児科学会大分地方会. 2025.2.16 (大分)
4. 水落建輝. 特別講演 外来でみる小児思春期の長引く腹痛と便通異常. 荒尾市医師会講演会. 2025.3.6 (荒尾)
5. 水落建輝. 特別講演 小児IBDの最新知見～VEOIBDとMonogenic IBDを中心に～. 第27回中国地区小児免疫研究会. 2025.3.8 (広島)
6. 水落建輝. 特別講演 最近増えているこどもの慢性的な腹痛と便通異常をきたす疾患. 長崎県小児科医会総会. 2025.4.12 (長崎)
7. 水落建輝. 教育セミナー C型肝炎の母子感染と知っておくべき小児期の抗ウイルス療法. 第128回日本小児科学会学術集会. 2025.4.18-20 (名古屋)
8. 水落建輝. 特別講演 劇的に進歩しているこどものおなかの病気の診断と治療. 第61回北九州地区小児科医会定期総会. 2025.5.18 (小倉)
9. 水落建輝. ランチョンセミナー 新生児～小児期発症胆汁うっ滞性肝疾患の最新トピックス. 乳幼児胆汁うっ滞症の診断・治療の最前線. 第62回日本小児外科学会学術集会. 2025.6.6 (東京)
10. 水落建輝. 特別講演 こどものおなかの病気を科学する. 第529回日本小児科学会福岡地方会例会. 2025.6.14 (Hybrid, 福岡)
11. 水落建輝. 教育講演 体重増加不良の中に潜む鑑別が重要な小児の消化器疾患. 第16回日本子ども虐待医学会学術集会. 2025.8.23-24 (Hybrid, 福岡)
12. 水落建輝. 特別講演 外来でみる小児消化器疾患のピットフォール. 八幡小児科医会講演会. 2025.8.28 (北九州)
13. 水落建輝. 教育講演 小児の予防接種とC型肝炎のトピックス. 八女筑後医師会予防接種講演会. 2025.10.2 (八女)
14. 水落建輝. 特別講演 小児消化器疾患のトピックス～IBD、C型肝炎、IgA血管炎を中心に～. 第194回お茶の水木曜会. 2025.10.9 (Web)
15. 水落建輝. 特別講演 こどものおなかの病気を科学する. 第189回日本小児科学会鹿児島地方会. 2025.10.19 (Hybrid, 鹿児島)
16. 水落建輝. 特別講演 劇的に増加している小児思春期炎症性腸疾患の最新知見. 別府市医師会メディカル・セミナー. 2025.11.1 (別府)
17. 水落建輝. 特別講演 最近増えているこどものおなかの病気～機能的消化管疾患と炎症性腸疾患を中心に～. 第78回九州小児科学会. 2025.11.30 (福岡)

－企業主催講演会

1. 水落建輝. 特別講演 小児IBDの診療と研究の最新知見. 第31回筑後IBDセミナー. 主催 杏林製薬株式会社. 2025.1.15 (Hybrid, 久留米)

2. 水落建輝. アラジール症候群に対するリブマリーへの期待～臨床試験から考える有用性とは?～. リブマリー全国Web講演会. 主催 武田薬品工業株式会社. 2025.5.13 (Web)
3. 水落建輝. 指定発言 小児IBD治療指針令和6年度改訂版のポイント. 第2回西日本小児思春期IBDセミナー. 主催 ミヤリサン製薬株式会社. 2025.6.20 (Hybrid, 広島)
4. 水落建輝. 教育講演 乳幼児胆汁うっ滞症の診断と治療. 武田薬品工業株式会社 医学教育会. 2025.6.24 (Hybrid, 久留米)
5. 水落建輝. アラジール症候群に対するリブマリーの有効性と安全性. リブマリー発売記念全国講演会. 主催 武田薬品工業株式会社. 2025.8.2 (Hybrid, 東京)
6. 水落建輝. こどものおなかの病気を科学する～ここまで進歩した小児消化器肝臓病の診断と治療～. 第5回金沢小児消化器学術セミナー. 主催 ミヤリサン製薬. 2025.8.29 (Hybrid, 金沢)
7. 水落建輝. 特別講演 こどものおなかの病気を科学する～機能性消化管疾患・IBD・IgA血管炎を中心に～. 第5回小児消化器疾患セミナー. 主催 ミヤリサン製薬. 2025.11.25 (Hybrid, 東京)
8. 水落建輝. AAV遺伝子治療に伴う臓器障害～肝障害を中心に～. 九州エレビス適正使用研究会. 主催 中外製薬. 2025.12.23 (Hybrid, 福岡)

—学会・研究会演題—

—国際学会

1. Naoya Tsumura, Ken Kato, Ryuta Nishikomori, Tatsuki Mizuochi. JPAILD Study Investigators. Serum GDF-15 as A Novel Diagnostic Biomarker in Children with Autoimmune Hepatitis: A Multicenter Prospective Study in Japan. (Oral presentation) The 6th Taiwan-Japan-Korea Joint Meeting of Pediatric Gastroenterology, Hepatology and Nutrition. 2025.9.12-13 (Taipei, Taiwan)
2. Taku Kimura, Kazuhiro Yasumoto, Kazuki Homma, Naoya Tsumura, Tatsuki Mizuochi. COMPARATIVE ANALYSIS OF CLINICAL CHARACTERISTICS AND OUTCOMES BETWEEN CHILDREN WITH VERY EARLY ONSET INFLAMMATORY BOWEL DISEASE (VEOIBD) AND NON-VEOIBD: A SINGLE-CENTER EXPERIENCE IN JAPAN. (Poster presentation) NASPGHAN Annual Meeting 2025. 2025.11.6-8 (Chicago, USA)
3. Naoya Tsumura, Ken Kato, Ryuta Nishikomori, Tatsuki Mizuochi. JPAILD Study Investigators. SERUM GDF-15 AS A NOVEL BIOMARKER IN PEDIATRIC AUTOIMMUNE HEPATITIS: A PROSPECTIVE MULTICENTER STUDY IN JAPAN. (Poster presentation) NASPGHAN Annual Meeting 2025. 2025.11.6-8 (Chicago, USA)
4. Tatsuki Mizuochi, Daiki Abukawa, Ayano Inui, Yoshihiro Azuma, Takako Suzuki, Hiroko Yagi, Hideki Kumagai, Sotaro Mushiake, Daisuke Tokuhara, Naoya Tsumura, Ken Kato, and Hitoshi Tajiri. REAL-WORLD EFFICACY AND SAFETY OF GLECAPREVIR/PIBRENTASVIR IN CHILDREN AGED 3 TO 11 YEARS WITH CHRONIC HEPATITIS C VIRUS INFECTION: A PROSPECTIVE MULTICENTER STUDY IN JAPAN. (Poster presentation) NASPGHAN Annual Meeting 2025. 2025.11.6-8 (Chicago, USA)

—国内学会

1. 木村 拓, 安元和博, 津村直弥, 加藤 健, 安田亮輔, 水落建輝. 超早期発症型炎症性腸疾患の臨床的特徴と予後単施設13年の経験. 第17回福岡県医学会総会. 2025.1.26 (福岡)
2. 津村直弥, 加藤 健, 西小森隆太, 水落建輝. JPAILD Study Investigators. 小児自己免疫性肝炎における血清GDF-15の新規バイオマーカーとしての可能性: 前方視的多機関共同研究. 第128回日本小児科学会学術集会. 2025.4.18-20 (Hybrid, 名古屋)

3. 木村 拓, 安元和博, 津村直弥, 加藤 健, 安田亮輔, 水落建輝. 単施設の13年間における超早期発症型炎症性腸疾患の臨床的特徴と予後. 第128回日本小児科学会学術集会. 2025.4.18-20 (Hybrid, 名古屋)
4. 水落建輝, 川名克芳, 小林真理子, 岩下恵理, 岩間 達, 虻川大樹, 田尻 仁. 3歳以上18歳未満のC型慢性肝炎患者に対するグレカプレビル/ピブレンタスビルの全例調査. 第61回日本肝臓学会総会. 2025.6.5-6 (Hybrid, 東京)
5. 木村 拓, 津村直弥, 本間一樹, 水落建輝. 超早期発症型炎症性腸疾患の臨床像と予後. 第16回日本炎症性腸疾患学会学術集会. 2025.8.22-23 (Hybrid, 札幌)
6. 水落建輝, 虻川大樹, 乾 あやの, 東 良紘, 鈴木高子, 八木弘子, 熊谷秀規, 虫明聡太郎, 徳原大介, 津村直弥, 加藤 健, 田尻 仁. 実臨床における3~11歳の小児C型肝炎に対するグレカプレビル/ピブレンタスビルの有効性と安全性: 多機関共同研究. 第52回日本小児栄養消化器肝臓学会学術集会. 2025.9.26-28 (宇都宮)
7. 津村直弥, 本間一樹, 木村 拓, 加藤 健, 藤田貴子, 水落建輝. KCNT1 遺伝子変異に合併した難治性潰瘍性大腸炎に対してウステキスマブが有効であった1例. 第52回日本小児栄養消化器肝臓学会学術集会. 2025.9.26-28 (宇都宮)
8. 木村 拓, 本間一樹, 津村直弥, 加藤 健, 水落建輝. 精巣上体炎を合併した難治性IgA血管炎に対しステロイドパルス療法が奏効した幼児例. 第52回日本小児栄養消化器肝臓学会学術集会. 2025.9.26-28 (宇都宮)
9. 本間一樹, 木村 拓, 津村直弥, 水落建輝. 実臨床における小児潰瘍性大腸炎に対する血清PR3-ANCAの有有用性: a pilot study. 第52回日本小児栄養消化器肝臓学会学術集会. 2025.9.26-28 (宇都宮)

—研究会・地方会—

1. 中村優也, 津村直弥, 加藤 健, 北城恵史郎, 日吉祐介, 田中征治, 西小森隆太, 水落建輝. 消化器症状がなかった好酸球性消化管疾患に伴う蛋白漏出性胃腸症の乳児例. 第21回日本小児消化管感染・免疫アレルギー研究会. 2025.2.9 (大阪)
2. 木村 拓, 加藤 健, 津村直弥, 安田亮輔, 水落建輝. VEOIBDと非VEOIBD小児例の臨床像の比較検討: 単施設13年の経験. 第25回日本小児IBD研究会. 2025.3.1-2 (和歌山)
3. 津村直弥, 木村 拓, 加藤 健, 水落建輝. ウバダシチニブにより一過性の肝障害と脂質異常を認めたが継続可能であった難治性潰瘍性大腸炎の1例. 第25回日本小児IBD研究会. 2025.3.1-2 (和歌山)
4. 水落建輝, 虻川大樹, 乾 あやの, 東 良紘, 鈴木高子, 八木弘子, 熊谷秀規, 虫明聡太郎, 徳原大介, 田尻 仁. 本邦の実臨床における3~11歳の小児C型肝炎に対するグレカプレビル・ピブレンタスビルの有効性と安全性. 第41回日本小児肝臓研究会. 2025.7.12-13 (東京)
5. 津村直弥, 加藤 健, 西小森隆太, 水落建輝. JPAILD Study Investigators. 小児自己免疫性肝炎における血清GDF-15の有有用性: 多機関共同研究. 第41回日本小児肝臓研究会. 2025.7.12-13 (東京)
6. 桑野佑里恵, 木村 拓, 本間一樹, 津村直弥, 水落建輝. 先天性十二指腸閉鎖症術後10年以上経過した後に吻合部Dieulafoy潰瘍をきたした小児例. 第530回日本小児科学会福岡地方会例会. 2025.9.13 (福岡)

—学会・研究会主催—

1. 水落建輝 (会長). 令和7年度 (第71回) 福岡県小児保健研究会・母子保健関係者研修会. 2025.12.6 (久留米)

—受賞・獲得研究費—

1. 安元和博. 2024年度Young Investigator's Award 最優秀演題賞. 日本小児科学会福岡地方会 2025.6.14 (福岡)

2. 津村直弥. Best Poster Award. The 6th Taiwan-Japan-Korea Joint Meeting of Pediatric Gastroenterology, Hepatology and Nutrition. 2025.9.12-13 (Taipei, Taiwan)
3. 木村 拓. 優秀演題賞. 第16回日本炎症性腸疾患学会学術集会. 2025.8.22-23 (Hybrid, 札幌)
4. 本間一樹. 会長特別賞. 第26回日本小児IBD研究会. 2026.3.7-8 (東京)
5. 水落建輝 (研究代表者). 久留米リサーチ・パーク「オーファンドラッグ開発基盤の構築」. 2025年度 800万円.
6. 水落建輝 (研究分担者). AMED 浅野班「サイトカイン中和抗体に起因する先天性免疫異常症類似症の疾患概念確立に向けたエビデンス創出」. 2025年度 91万円.
7. 水落建輝 (研究分担者). AMED 田尻班「小児のウイルス性肝炎の経過及び治療選択に関する研究」. 2025年度 35万円.
8. 水落建輝 (研究分担者). 厚労省科研 田口班「希少難治性消化器疾患の長期的QOL向上と小児期からのシームレスな医療体制構築」. 2025年度 20万円.
9. 津村直弥 (研究代表者). 森永奉仕会研究奨励金「難治性消化器症状を伴うIgA血管炎の病態解析とジアフェニルスルホンの作用機序の解明」. 60万円
10. 木村 拓. 日本小児IBD研究会トラベルグラント (NASPGHAN2025). 10万円.

循環器

—論文—

1. Keitaro Tsuda, Yoshiyuki Kagiya, Koki Kiyomatsu, Ryuta Takase, Yozo Teramachi, Kenji Suda. Clinical importance of heart disease screening in school for detecting atrial septal defects with significant shunt. Heart and Vessels. (in press)
2. 伊吹圭二郎, 松井彦郎, 犬塚 亮, 青木寿明, 加藤温子, 喜瀬広亮, 金 成海, 近藤麻衣子, 佐藤 純, 長友雄作, 藤本一途, 松尾久実代, 芳本 潤, 隈丸 拓, 宮田裕章, 上田秀明, 小野 博, 杉山 央, 須田憲治, 富田 英, 西川 浩, 原 英彦, 藤井隆成, 宗内 淳, 大月審一. 2021年における先天性心疾患, 川崎病および頻拍性不整脈に対するカテーテルインターベンション・アブレーション全国集計: ~日本先天性心疾患インターベンション学会レジストリー (JCIC-Registry) からの年次報告~ Journal of JCIC 9(1): 9-18.

—日本語症例報告

1. 太田光紀, 寺町陽三, 津田恵太郎, 高瀬隆太, 木下正啓, 須田憲治. 総肺静脈還流異常症 (下心臓型) に対する静脈菅ステント留置後の新たな再狭窄評価法. 日本小児循環器学会雑誌. Vol 41(2): 77-81 (2025).

—著書—

1. 須田憲治. 特集 川崎病update V. 遠隔機治療・管理 遠隔期管理の基本的な考え方. 日本臨床 83(3): 390-395, 2025 日本臨床社
2. 鍵山慶之, 須田憲治. VIII-4. 動脈管開存症. 循環器疾患最新の治療 2026-2027. 2026/1/27

—日本語依頼原稿

1. 鍵山慶之, 須田憲治. 学校心臓検診で見つける・見つかる不整脈・心疾患「心房中隔欠損症」. 452-459 小児科 Vol. 66 No.5 2025 金原出版株式会社
2. 寺町陽三, 須田憲治. こどもの心電図と心エコー図 IV 小児心筋・冠動脈疾患の心電図と心エコー図 「冠動

—講演・シンポジウム—

—国際学会—

1. Kenji Suda. Debate Session CON: Patients with small coronary aneurysms that resolve within the first year after illness onset can be discharged from cardiac care. The 9th World Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery. Hong Kong, China. 2025/12/7-12

—国内学会—

1. 須田憲治. ランチョンセミナー ゴア® カーディオフォーム ASD オクルーダーの閉鎖法 – ロングシースの使い方と心腔内エコーガイドでの留意–. 第35回日本先天性心疾患インターベンション学術集会. 2025/1/23-25 (福岡).
2. 鍵山慶之. ランチョンセミナー 手技的リスクを有する低体重児の心房中隔欠損症に対する治療戦略と Occlutech® Figulla Flex II の有効性. 第61回日本小児循環器学会学術集会 2025/7/10 (津)
3. 須田憲治, 山川祐輝, 新居正基, 中川直美, 池田健太郎, 上田知実, 廣野恵一, 鈴木浩之, 倉岡彩子, 黒寄健一. 本邦における冠動脈対側冠動脈洞の実態調査. 委員会企画シンポジウム4 第61回日本小児循環器学会学術集会 2025/7/12 (津)
4. 鍵山慶之. Multiple defects with absent multiple rims. JSPCCS 2nd Asia-Pacific Web Conference. 2025/9/30 (Web)
5. Yozo Teramachi, Kirie Ohtsu, Yuuki Yamakawa, Kouki Kiyomatsu, Yoshiyuki Kagiya, Ryuta Takase, Kenji Suda. Questionnaire Survey on Coronary Artery Echocardiography in patients with Kawasaki Disease. 第45回日本川崎病学会・学術集会 2025/10/17-18 (久留米)

—研究会・学会地方会—

1. 須田憲治. 川崎病遠隔期の血管炎. 第49回近畿川崎病研究会特別講演 2025/3/1 (大阪)
2. 鍵山慶之. 留学のススメ. 第2回診断的および治療的心臓カテーテルのための教育カンファレンス UEDICC. 2025/6/6 (大阪)
3. 寺町陽三. SHD 診療の心エコー評価と適応患者を見つけ出すコツ 経皮的心房中隔閉鎖術. 第39回日本心血管インターベンション治療学会 九州・沖縄地方会. 2025/9/5-6 (鹿児島)
4. 鍵山慶之. 成人(高齢者)の経皮的動脈管閉鎖術 問題点と工夫. ACHD セッション「低侵襲で先天性心疾患を治療する」. 第139回日本循環器学会九州地方会. 2025/12/6 (福岡)

—その他—

1. 鍵山慶之, 佐々木雅弘, 須田憲治. GCA の脱落回収. JCIC 医療安全 webinar 2025.2.15 (Web)
2. 鍵山慶之. 多様性の時代に AMPLATZER Septal Occluder を使いこなす. Amplatzer ASD Academy_Vol.4 2025/7/15 (Web)
3. 寺町陽三. 最近の川崎病について 宗像小児科医会 講演会 2025/11/20 (宗像)
4. 津田恵太郎, 家村素史, 須田憲治. U-40 が名前だけ知っている Senning 手術～術後成人期評価の問題点～. 日本成人先天性心疾患学会 第110回 ACHD night 2025/8/22 (Web)

—学会・研究会演題—

—国際学会（口演）

1. Yoshiyuki Kagiya, Yuki Yamakawa, Kirie Otsu, Masafumi Gakumazawa, Masahiro Kinoshita, Yozo Teramachi, Kenji Suda. Successful balloon pulmonary angioplasty for acute pulmonary thromboembolism of a 1.2 kg body weight infant. CSI Frankfurt. Frankfurt, Germany. 2025/6/19-22
2. Yoshiyuki Kagiya, Kirie Otsu, Yuki Yamakawa, Koki Kiyomatsu, Yasuyuki Zaima, Ryuta Takase, Yozo Teramachi, Takahiro Shojima, Kenji Suda. Impact of transcatheter atrial septal defect closure in small patients under 10kg of body weight. 9th World Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery. Hong Kong, China. 2025/12/7-12

—国際学会（ポスター）

1. Kenji Suda, Yuki Yamakawa, Masaki Nii, Naomi Nakagawa, Kentaro Ikeda, Tomomi Ued, Keiichi Hirono, Hiroyuki Suzuki, MD, Ayako Kuraoka, Kenichi Kurosaki. The Japanese nationwide survey of the anomalous aortic origin of a coronary artery in Japan. Flash Talk. The 57th Annual Meeting of the Association for European Paediatric and Congenital Cardiology, Hamburg, Germany. 2025/5/28-31
2. Kenji Suda, Yuki Yamakawa, Masaki Nii, Naomi Nakagawa, Kentaro Ikeda, Tomomi Ued, Keiichi Hirono, Hiroyuki Suzuki, MD, Ayako Kuraoka, Kenichi Kurosaki. The Japanese nationwide survey of the anomalous aortic origin of a coronary artery in Japan. American Heart Association 2025, New Orleans, USA. 2025/11/7-11
3. Yuki Yamakawa, Yoshiyuki Kagiya, Kirie Otsu, Kouki Kiyomatsu, Yasuto Maeda, Yasuki Maeno, Kenji Suda. Diameter of the carotid, axillary, and femoral arteries in infants less than 2.5 kg of body weight. 9th World Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery. Hong Kong, China. 2025/12/7-12
4. Kirie Otsu, Yozo Teramachi, Keitaro Tsuda, Satoko Umino, Yoshiyuki Kagiya, Ryuta Takase, Masahiro Kinoshita, Yasuki Maeno, Kenji Suda. Neonatal Thyrotoxicosis Associated with Maternal Basedow's Disease: A Case Report. 9th World Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery. Hong Kong, China. 2025/12/7-12
5. Clinical and genetic insights into congenital long QT syndrome. A single-center retrospective study. Ryuta Takase, Kirie Otsu, Yuki Yamaka, Koki Kiyomatsu, Yoshiyuki Kagiya, Yozo Teramachi, Yoriko Watanabe, Kenji Suda. 9th World Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery. Hong Kong, China. 2025/12/7-12
6. Yozo Teramachi, Yasuki Maeno, Kirie Otsu, Yuki Yamakawa, Koki Kiyomatsu, Yoshiyuki Kagiya, Ryuta Takase, Kenji Suda. Hemodynamic Assessment Using Fetal Cardiac Output in Congenital Complete Atrioventricular Block. 9th World Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery. Hong Kong, China. 2025/12/7-12

—国内学会（口演）

1. 鍵山慶之, 清松光貴, 津田恵太郎, 前田靖人, 寺町陽三, 家村素史, 須田憲治. 乳児の large PDA に対するカテーテル治療成績. 第 35 回日本先天性心疾患インターベンション学会. 2025/1/23-25 (福岡)
2. 鍵山慶之, 清松光貴, 山川祐輝, 寺町陽三, 須田憲治. Zero-contrast での 1.8kg の PDA 閉鎖. 第 35 回日本先天性心疾患インターベンション学会. 2025/1/23-25 (福岡)
3. 清松光貴, 山川祐輝, 津田恵太郎, 前田靖人, 鍵山慶之, 高瀬隆太, 佐々木雅弘, 寺町陽三, 財満康之, 庄嶋賢弘, 須田憲治. 後下縁欠損症例に対する経皮的心房中隔欠損閉鎖術. 第 35 回日本先天性心疾患インターベンション学会. 2025/1/23-25 (福岡)

4. 寺町陽三, 前野泰樹, 堀之内崇士, 廣瀬彰子, 須田憲治. 抗SSA抗体関連の完全房室ブロック高度徐脈胎児における分娩帰結タイミングに関して. 第31日本胎児心臓病学会 2025/2/22-23 (福山)
5. 寺町陽三, 前野泰樹, 大津生利衣, 山川祐輝, 清松光貴, 鍵山慶之, 高瀬隆太, 須田憲治. 当院における過去10年間の胎児徐脈性不整脈の検討. 第61回日本小児循環器学会学術集会 2025/7/11 (津)
6. 鍵山慶之, 山川祐輝, 清松光貴, 財満康之, 高瀬隆太, 寺町陽三, 庄嶋賢弘, 須田憲治. 体重10Kg未満の経皮的心房中隔欠損閉鎖術の有効性と児の成長に与える影響. 第61回日本小児循環器学会 2025/7/11 (津)
7. 前田靖人, 津田恵太郎, 家村素史, 須田憲治, 前野泰樹. 小児における劇症型心筋炎と急性胃腸炎との初診時ルーチン検査所見の比較. 第61回日本小児循環器学会 2025/7/12 (津)
8. 清水大輔, 宗内 淳, 大野拓郎, 山村健一郎, 佐川浩一, 須田憲治, 家村素史. 医療的ケアを要する先天性心疾患患児の就園状況調査:患者家族へのアンケート調査結果. 第61回日本小児循環器学会 2025/7/11 (津)
9. 永田 弾, 西畠 信, 前野泰樹, 漢 信彦, 川村順平, 寺町陽三, 杉谷雄一郎, 原田雅子, 土井大人, 原 卓也, 岡田清吾. 九州地区における重症先天性心疾患の胎児診断率. 第61回日本小児循環器学会 2025/7/10 (津)
10. 清松光貴, 大津生利衣, 山川祐輝, 鍵山慶之, 高瀬隆太, 木下正啓, 寺町陽三, 須田憲治. SGA児における生後10年での心血管構造・機能への影響. 第44回 日本小児循環動態研究会 2025/10/4-5 (松本)

ー国内学会 (ポスター)

1. 須田憲治, 佐々木雅浩. アミオダロン内服中に甲状腺機能低下症後に甲状腺中毒症を呈した1例. 第26回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会 2025/1/11 (大阪)
2. 山川祐輝, 鍵山慶之, 清松光貴, 前田靖人, 高瀬隆太, 寺町陽三, 須田憲治. バルーン肺動脈弁拡大術による冠動脈圧迫の既往のある肺動脈弁狭窄の再拡張. 第35回日本先天性心疾患インターベンション学術集会. 2025/1/23-25 (福岡)
3. 津田恵太郎, 家村素史, 須田憲治. 異常な方向に埋設された生体弁に対して井上バルーンを使用して安全にBPVを施行できた1例. 第35回日本先天性心疾患インターベンション学術集会. 2025/1/23-25 (福岡)
4. 大津生利衣, 寺町陽三, 津田恵太郎, 海野聡子, 鍵山慶之, 高瀬隆太, 木下正啓, 前野泰樹, 須田憲治. 母体Basedow合併妊娠で出生後に集中管理を要する甲状腺クリーゼを発症した1症例. 日本胎児心臓病学会第31回学術集会 2025/2/22 (福山)
5. 高瀬隆太, 清松光貴, 鍵山慶之, 福井香織, 寺町陽三, 岩永 聡, 橋川恵子, 室田浩之, 名嘉真武國, 須田憲治, 渡邊順子. 皮膚症状に先行して循環器症状を呈したPXEの小児例. 第47回日本小児遺伝学会学術集会 2025/3/1 (東京)
6. 寺町陽三, 前野泰樹, 清松光貴, 鍵山慶之, 高瀬隆太, 木下正啓, 須田憲治, 水落建輝. 先天性完全房室ブロックにおけるfetal cardiac outputでの循環動態評価. 第128回日本小児科学会学術集会 2025/4/20 (名古屋)
7. 高瀬隆太, 福井香織, 渡邊順子, 水落建輝. 拡大マスキングにより乳児型ボンベ病の診断に至ったベトナム人の1例. 第128回日本小児科学会学術集会 2025/4/20 (名古屋)
8. 山川祐輝, 清松光輝, 鍵山慶之, 高瀬隆太, 寺町陽三, 須田憲治, 水落建輝. 運動負荷心電図中に一度減少した心室期外収縮が目標心拍数付近で繰り返す心室頻拍を認めた1例. 第128回日本小児科学会学術集会 2025/4/18 (名古屋)
9. 高瀬隆太, 山川祐輝, 清松光貴, 鍵山慶之, 寺町陽三, 渡邊順子, 須田憲治. 学校心臓検診におけるQT延

長例の遺伝学的解析と診断の課題. 第61回日本小児循環器学会 2025/7/10 (津)

10. 清松光貴, 鍵山慶之, 山川祐輝, 津田恵太郎, 前田靖人, 高瀬隆太, 寺町陽三, 須田憲治. 異なる心筋症の発症様式を呈した褐色細胞腫・パラガングリオーマの2例. 第61回日本小児循環器学会 2025/7/10 (津)
11. 津田恵太郎, 家村素史, 須田憲治. TGA Senning手術後の成人症例に術後遠隔期に重症肺高血圧を合併した1例. 第61回日本小児循環器学会 2025/7/12 (津)
12. 山川祐輝, 寺町陽三, 清松光貴, 津田恵太郎, 前田靖人, 鍵山慶之, 高瀬隆太, 須田憲治. 左上大静脈遺残を伴う心房中隔欠損症に肺高血圧を合併し乳幼児期に治療を要した4例. 第61回日本小児循環器学会 2025/7/11 (津)
13. 大津生利衣, 鍵山慶之, 山川祐輝, 清松光貴, 高瀬隆太, 寺町陽三, 須田憲治. カテーテル治療が唯一の治療手段であった、両側乳び胸を合併した未熟児動脈管開存症の1例. 第61回日本小児循環器学会 2025/7/10 (津)
14. 甲斐蘭七, 前田靖人, 津田恵太郎, 鍵山慶之, 家村素史, 須田憲治, 前野泰樹. 急速な経過で心原性ショックを来した房室回帰頻拍の新生児例. 第61回日本小児循環器学会 2025/7/12 (津)
15. 小竹 由, 鍵山慶之, 大津生利衣, 山川祐輝, 清松光貴, 高瀬隆太, 寺町陽三, 須田憲治. 出血性胃潰瘍を伴った学童の川崎病不応例. 第45回日本川崎病学会 2025/11/18 (久留米)
16. 山川祐輝, 鍵山慶之, 大津生利衣, 久保雄太郎, 清松光貴, 高瀬隆太, 木下正啓, 寺町陽三, 須田憲治, 水落建輝. 体重2.5kg未満の乳児における頸動脈・腋窩動脈・大腿動脈径. 第78回九州小児科学会 2025/11/29-30 (福岡)

—研究会・学会地方会—

1. 山川祐輝, 大津生利衣, 清松光貴, 鍵山慶之, 高瀬隆太, 寺町陽三, 須田憲治. 川崎病性冠動脈瘤に対してワーファリン内服中にループスアンチコアグラント陽性低プロトロンビン血症 (LA-HPS) を発症した1例. 第23回九州川崎病研究会 2025/5/17 (宮崎)
2. 山川祐輝, 大津生利衣, 清松光貴, 鍵山慶之, 高瀬隆太, 寺町陽三, 須田憲治. 多源性心房頻拍の診断と治療に難渋した新生児例. 第37回九州小児不整脈研究会 2025/11/29-30 (別府)
3. 杉之原理衣, 寺町陽三, 大津生利衣, 山川裕輝, 清松光貴, 鍵山慶之, 高瀬隆太, 木下正啓, 渡邊順子, 須田憲治, 水落建輝. Noonan症候群の閉塞性肥大型心筋症に高容量シベンゾリンが奏効した一例. 小児科学会福岡地方会 2025/12/13 (福岡)

—研究費・受賞—

—研究費

1. 須田憲治. 厚生労働省難治性疾患政策研究事業 (大内班) 「先天性心疾患を主体とする小児期発症の心血管難治性疾患の救命率の向上と生涯にわたる QOL 改善のための総合的研究」 (R7 年度)
2. 寺町陽三. 文部科学省科学研究費若手研究「サイトカイン及び mRNA 遺伝発現解析で迫る先天性完全房室ブロック発症機序解明」 (R7 年度)
3. 高瀬隆太. 文部科学省科学研究費若手研究「心臓突然死予防に向けた冠動脈起始異常の新規診断マーカーとリスク層別化因子の同定」 (R7 年度)
4. 鍵山慶之. 文部科学省科学研究費若手研究「在胎不当過小児への成長ホルモン過剰による血管機能障害および動脈硬化前病変の調査」 (R7 年度)

免疫膠原病

—論文—

1. Vande Walle L, Kato K, Yamagishi M, Kamatani T, Vervaeke A, Martín-Pérez R, Shimizu M, Takizawa T, Takita J, Nishikomori R, Ohara O, Izawa K, Shirasaki Y, Lamkanfi M. Single-cell analysis reveals cell death as driver of NLRP3-mediated secretion of IL-1 β in human monocytes. *Nat Immunol.* 2025;26(12):2148-2158.
2. Sumitomo S, Hirano T, Moriichi A, Inoue Y, Narazaki H, Inoue M, Yokogawa N, Kambe N, Mukai T, Izawa K, Kishida D, Yoshifuji H, Yamaji K, Nishikomori R, Mori M, Miyamae T. Consideration of useful patient-reported outcome measures to identify the unmet medical needs of children and adults with autoimmune and autoinflammatory diseases. *Mod Rheumatol.* 2025;35(4):599-611.
3. Shiraki M, Kadowaki S, Miwa Y, Nishimura K, Maruyama Y, Kishida D, Imagawa K, Kobayashi C, Takada H, Mitsunaga K, Inoue Y, Ebato T, Miyamoto T, Hiejima E, Sato S, Migita K, Matsubayashi T, Kobayashi D, Hasegawa E, Kaneko U, Ishikawa T, Onodera M, Matsushita K, Koike Y, Umebayashi H, Kakuta F, Abukawa D, Funakoshi Y, Ishimura M, Otani Y, Nishizawa T, Ishige T, Hatori R, Tanaka S, Kusunoki S, Nakamura K, Shirai H, Hatai Y, Miyaoka F, Kaneko S, Shimbo A, Shimizu M, Kanegane H, Hashimoto M, Negoro N, Yoshida T, Wada Y, Usami M, Wada T, Izawa K, Yasumi T, Nishikomori R, Ohnishi H. Clinical characteristics and treatment strategies for A20 haploinsufficiency in Japan: a national epidemiological survey. *Front Immunol.* 2025;16:1548042.
4. Shimizu M, Inoue E, Sakai R, Inoue Y, Mitsunaga K, Sugihara T, Hirano T, Izawa K, Kishida D, Matsushita M, Mori M, Narazaki H, Nishikomori R, Sumitomo S, Tanaka T, Yamazaki S, Yamaji K, Yokogawa N, Yoshifuji H, Miyamae T. Verification of unmet medical needs in patients with juvenile idiopathic arthritis in Japan. *Mod Rheumatol.* 2025;35(5):909-915.
5. Oshima K, Inage E, Toriumi S, Oishi K, Yamada H, Baba Y, Kudo T, Ohtsuka Y, Nishikomori R, Nakamura H, Michihata N, Shoji H. Cimetidine for Pediatric Use in Japan: Rising Prescriptions for a New Indication. *Tohoku J Exp Med.* 2025.
6. Nihira H, Nakajima D, Izawa K, Kawashima Y, Shibata H, Konno R, Higashiguchi M, Miyamoto T, Nishitani-Isa M, Hiejima E, Honda Y, Matsubayashi T, Ishihara T, Yashiro M, Iwata N, Ohwada Y, Tomotaki S, Kawai M, Murakami K, Ohnishi H, Ishimura M, Okada S, Yamashita M, Morio T, Hoshino A, Kanegane H, Imai K, Nakamura Y, Nonoyama S, Uchiyama T, Onodera M, Ishikawa T, Kawai T, Takita J, Nishikomori R, Ohara O, Yasumi T. Dried blood spot proteome identifies subclinical interferon signature in neonates with type I interferonopathy. *J Allergy Clin Immunol.* 2025;156(2):473-479.e1.
7. Miyamae T, Sakai R, Inoue Y, Kato D, Inoue E, Hirano T, Izawa K, Kishida D, Matsushita M, Mitsunaga K, Mori M, Narazaki H, Nishikomori R, Shimizu M, Sugihara T, Sumitomo S, Tanaka T, Yamazaki S, Yamaji K, Yokogawa N, Yoshifuji H, Tanaka E, Harigai M. Comparative clinical practice of juvenile idiopathic arthritis and rheumatoid arthritis in adolescents and young adults: A retrospective cohort study using Japanese health insurance claims data (2016-20). *Mod Rheumatol.* 2025;35(6):935-943.
8. Miyake A, Gotoh K, Shima S, Okumiya K, Nishikomori R, Mizuochi T. Early diagnosis of chronic granulomatous disease and McLeod syndrome via the use of a next generation sequencing. *Pediatr Int.* 2025;67(1):e70108.
9. Maeda Y, Hiejima E, Izawa K, Nishimura K, Yazawa Y, Iwata N, Michikura M, Ishikawa H, Ito S, Nakamura Y, Nishikomori R, Yasumi T. The first nationwide epidemiological survey of chronic recurrent multifocal osteomyelitis in Japan. *Mod Rheumatol.* 2025;35(6):1047-1056.
10. Kirino Y, Maeda A, Asano T, Migita K, Hidaka Y, Ida H, Kobayashi D, Oda N, Rokutanda R, Fujieda Y,

- Atsumi T, Kishida D, Kobayashi H, Shiratsuchi M, Shimizu T, Kawakami A, Tanaka K, Tsuji T, Mishima K, Miyamae T, Hasegawa A, Ikeda K, Watanabe T, Yamaguchi Y, Nishikomori R, Ohara O, Nakajima H. Low remission rates and high incidence of adverse events in a prospective VEXAS syndrome registry. *Rheumatology (Oxford)*. 2025;64(6):3872-3878.
11. Kato K, Honda Y, Kamatani T, Murakami K, Shimizu M, Komai T, Kanda H, Yasumura J, Ando T, Yamasaki Y, Takei S, Ohnishi H, Matsubara T, Takizawa T, Kawai T, Umebayashi H, Nishimata S, Kawashima H, Tamura N, Hosokawa J, Kambe N, Kitamoto H, Okabe M, Yamamoto S, Kurosawa Y, Kaneko U, Nakamura Y, Miyamoto T, Nihira H, Shibata H, Tanaka T, Hiejima E, Fujio K, Nakajima A, Yamagishi M, Shirasaki Y, Saito MK, Okada S, Ogawa S, Takita J, Ohara O, Nishikomori R, Yasumi T, Izawa K. Longitudinal Analysis of Somatic Mosaicism and Clonal Hematopoiesis in Cryopyrin-Associated Periodic Syndrome. *Arthritis Rheumatol*. 2025.
 12. Kato C, Sasajima T, Nishikomori R. Safety and effectiveness of canakinumab in Japanese patients with cryopyrin-associated periodic syndrome: final results from a post-marketing surveillance in Japan. *Mod Rheumatol*. 2025.
 13. Kaneko S, Hatano M, Shimbo A, Miyaoka F, Irabu H, Akutsu Y, Hayashi Y, Mizuta M, Nakagishi Y, Akamine K, Iwata N, Furuno K, Tanaka T, Ueno K, Fujita S, Yokoyama K, Minato T, Izawa K, Yasumi T, Matsubayashi T, Hosoya T, Nishikawa H, Fujimura J, Asano R, Sugita Y, Watanabe K, Kobayashi A, Endo T, Eguchi K, Nishikomori R, Yasuoka R, Asano T, Kanno M, Hamada K, Fujita Y, Hayashi D, Watanabe S, Shiba T, Yasuda S, Mori M, Kanegane H, Takagi M, Shimizu M. Serum Cytokine Profiling Differentiates Underlying Diseases in Cytokine Storm Syndrome. *Arthritis Rheumatol*. 2025.
 14. Kanegane H, Miyamoto S, Kamiya T, Ohnishi H, Nishikomori R, Gennery AR, Mori T. Allogeneic hematopoietic cell transplantation for autoinflammatory disorders. *Int J Hematol*. 2025;122(2):190-198.
 15. Isawa M, Tokunaga Y, Tominaga M, Yamada H, Sudou M, Sumita S, Tokisawa S, Okumiya K, Houjou K, Gotoh K, Nishikomori R, Kawayama T, Hoshino T, Manabe T. A Case of X-linked Agammaglobulinemia First Diagnosed in Adulthood with Recurrent Pneumonia and Multiple Warty Skin Nodules. *Intern Med*. 2025.
 16. Yoshikawa K, Izawa K, Maeda Y, Tao C, Karakawa S, Shimizu M, Nihira H, Hiejima E, Saida S, Umeda K, Takita J, Yasumi T. Concurrent Immune Thrombocytopenia and Autoimmune Neutropenia in a 4-Year-Old Male Patient With XIAP Deficiency: A Case Report. *Pediatr Blood Cancer*. 2025;72(9):e31891.
1. 末継智士, 新居見真吾, 北城恵史郎, 倉田悟子, 日吉祐介, 田中征治, 西小森隆太, 山下裕史朗, 片渕瑛介. 尿糖陽性を契機に診断した急性尿細管間質性腎炎. *日本小児腎不全学会雑誌*. 2025 ; 45 : 97-100.
 2. 北城恵史郎, 栗屋智就, 西小森隆太. 【自己炎症性疾患 2025 –最新の基礎・臨床知見–】狭義の自己炎症性疾患 I型インターフェロン症 Aicardi-Goutieres症候群 8,9. *日本臨床*. 2025 ; 83 (2) : 198-205.
 3. 仲瀬裕志, 西小森隆太, 古賀智裕, 右田清志. インフラマソームを知ろう! 基礎と臨床の橋渡し. *消化器病学サイエンス*. 2025 ; 9 (3) : 121-129.
 4. 西小森隆太. 【インフラマソームを知ろう!】インフラマソームの基礎. *消化器病学サイエンス*. 2025 ; 9 (3) : 136-139.
 5. 宮城裕典, 井手水紀, 日吉祐介, 田中征治, 水落建輝, 橋川恵子, 西小森隆太. SLEに蛋白漏出性胃腸症 (PLE)を併発するLUPLEを発症した小児の一例. *小児リウマチ*. 2025 ; 15 (1) : 43-48.
 6. 村本雄哉, 塩川雅広, 桑田 威, 仁平寛士, 日衛嶋栄太郎, 井澤和司. 潰瘍性大腸炎の新規自己抗体の同定

とその臨床応用にむけて，小児リウマチ，2025；15（1）：4-10.

—著書—

1. 西小森隆太，自己炎症性疾患診療ガイドライン2026，統括委員長，日本リウマチ学会 編集 日本免疫不全・自己炎症学会 編集 日本小児リウマチ学会 編集，診断と治療社，2025年12月 発刊

—講演・シンポジウム—

—国内学会—

1. 仁平寛士，新規IEIsと最近の話題 ～自己炎症～，第8回日本免疫不全・自己炎症学会・学術集会，2025.2.14-15（京都）
2. 西小森隆太，小児リウマチ疾患のUp to date 自己炎症症候群アップデート，第128回日本小児科学会学術集会，2025.4.18-20（名古屋）
3. 西小森隆太，自己炎症性疾患診療ガイドライン改訂版からの新たな知見，第69回日本リウマチ学会総会・学術集会，2025.4.24-26（福岡）
4. 仁平寛士，先天性免疫異常症と自己免疫～1型インターフェロンの役割～，第53回日本臨床免疫学会総会，2025.10.9-11（千葉）
5. 仁平寛士，発熱と発疹で見逃してはいけない自己炎症性疾患 ～その他の自己炎症性疾患～，第57回日本小児感染症学会総会・学術集会，2025.11.8-9（浦安）

—研究会・学会地方会—

1. 西小森隆太，IEI 疾患、移行期医療について，関西IEI Forum，2025.1.30（大阪）
2. 西小森隆太，－自己炎症性疾患アップデートと抗体産生不全症の成人症例について－，第13回北陸免疫不全症セミナー，2025.3.7（金沢）
3. 西小森隆太，【教育講演】小児の不明熱の診療－，令和7年度 島根県小児科医会学術講演会，2025.6.1（島根）
4. 西小森隆太，若年性特発性関節炎と移行期医療全身型ならびに関節型JIAを含めて，リウマチ・膠原病セミナー in 九州・沖縄，2025.7.3（大分）

—その他—

1. 西小森隆太，小児の不明熱診療，北九州久留米大学小児科同門会，2025.7.26（北九州）

—学会・研究会—

—国内学会—

1. 大島華倫，稲毛英介，鳥海 俊，田中裕子，山田啓迪，米山俊之，山崎 晋，馬場洋介，西小森隆太，中村秀文，大塚宜一，工藤孝広，東海林宏道，公開統計を用いたシメチジン製剤の小児供給量評価，第31回日本行動医学会学術総会・第26回日本子ども健康科学会学術大会合同開催，2025.2.1-2（東京）
2. 安元和博，明井孝弘，島田 翔，満尾美穂，新居見真吾，日吉祐介，田中征治，大園秀一，西小森隆太，水落建輝，ミコフェノール酸モフェチル内服中に発症したEBウイルス関連びまん性大細胞型リンパ腫の1例，第128回日本小児科学会・学術集会，2025.4.18-20（名古屋）
3. 新居見真吾，日吉祐介，大武瑞樹，北城恵史郎，荒木潤一郎，吉田賢弘，倉田悟子，財津亜友子，木下正啓，田中征治，西小森隆太，水落建輝，妊婦へのARB薬中止後に羊水量の改善を認めたARB fetopathyの1例，第128回日本小児科学会・学術集会，2025.4.18-20（名古屋）
4. 日吉祐介，新居見真吾，北城恵史郎，田中征治，西小森隆太，水落建輝，少関節型若年性特発性関節炎と鑑

別を要した色素性絨毛結節性滑膜炎. 第128回日本小児科学会・学術集会. 2025.4.18-20 (名古屋)

5. 津村直弥, 加藤 健, 西小森隆太, 水落建輝. 小児自己免疫性肝炎における血清GDF-15の新規バイオマーカーとしての可能性. 前方視的多機関共同研究. 第128回日本小児科学会・学術集会. 2025.4.18-20 (名古屋)
6. 和田尚一郎, 才田 聡, 赤澤 嶺, 仁平寛士, 赤峰敬治, 合田由香利, 加藤健太郎, 前田由可子, 柴田洋史, 窪田博仁, 加藤 格, 梅田雄嗣, 日衛嶋栄太郎, 井澤和司, 金子修也, 友政 弾, 清水正樹, 金兼弘和, 八角高裕, 滝田順子. 全身型若年性特発性関節炎との鑑別が困難であったXIAP欠損症の一例. 第128回日本小児科学会・学術集会. 2025.4.18-20 (名古屋)
7. 國分杏奈, 井澤和司, 合田由香利, 加藤健太郎, 前田由可子, 中根茂晴, 戸川貴夫, 真保麻実, 金子修也, 清水正樹, 飯尾享平, 吉村 藍, 岡本清二, 荒木亮佑, 仁平寛士, 柴田洋史, 日衛嶋栄太郎, 滝田順子, 八角高裕. 第128回日本小児科学会・学術集会. 2025.4.18-20 (名古屋)
8. 東口素子, 柴田洋史, 仁平寛士, 中島大輔, 佐藤裕範, 紺野 亮, 石川将己, 日衛嶋栄太郎, 井澤和司, 滝田順子, 小原 収, 川島祐介, 八角高裕. 乾燥ろ紙唾液プロテオーム解析を用いた遺伝性疾患のスクリーニング. 第128回日本小児科学会・学術集会. 2025.4.18-20 (名古屋)
9. 桐野洋平, 前田彩花, 浅野智之, 右田清志, 日高由紀子, 井田弘明, 小林大介, 小田修宏, 六反田 諒, 藤枝雄一郎, 渥美達也, 岸田 大, 小林 弘, 清水俊匡, 川上 純, 辻 知宗, 三嶋耕司, 宮前多佳子, 長谷川杏奈, 池田 啓, 渡邊友也, 山口由衣, 西小森隆太, 中島秀明. 自己炎症疾患とVEXAS症候群. 全国的なVEXAS症候群前向きレジストリ登録後6ヵ月間の疾患活動性の推移と合併症の発生率. 第69回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2025.4.24-26 (福岡)
10. 日高由紀子, 西小森隆太, 前田彩花, 桐野洋平, 井田弘明. 当科VEXAS症候群3例における臨床的特徴. 第69回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2025.4.24-26 (福岡)
11. 中村優也, 津村直弥, 加藤 健, 北城恵史郎, 日吉祐介, 田中征治, 西小森隆太, 水落建輝. 消化器症状がなかった好酸球性消化管疾患に伴う蛋白漏出性胃腸症の乳児例. 第52回日本小児栄養消化器肝臓学会. 2025.9.26-28 (宇都宮)
12. 加藤 喬, 佐々木 泉, 西山奈央子, 倉良あや乃, 佐々木 泉, 邊見弘明, 本田吉孝, 井澤和司, 八角高裕, 大月寛郎, 松林 正, 西小森隆太, 福井竜太郎, 三宅健介, 藤井隆夫, 改正恒康. COPA症候群モデルマウスにおけるI型インターフェロニン活性化の病的意義について検討. 第53回日本臨床免疫学会総会. 2025.10.9-11 (千葉)
13. 新居見真吾, 北城恵史郎, 日吉祐介, 田中征治, 西小森隆太. 全身型JIA合併マクロファージ活性化症候群における活性化CD8 T細胞測定の有用性. 第34回日本小児リウマチ学会総会・学術集会. 2025.10.10-12 (千葉)
14. 田中征治, 新居見真吾, 浦元華子, 北城恵史郎, 日吉祐介, 仁平寛士, 西小森隆太. 可逆性後頭葉白質脳症と神経精神ループスの鑑別に髄液IL-6と短時間反復頭部MRIが有用と考えた1例. 第34回日本小児リウマチ学会総会・学術集会. 2025.10.10-12 (千葉)
15. 今津 喬, 柴田洋史, 合田由香利, 加藤健太郎, 前田由可子, 仁平寛士, 日衛嶋栄太郎, 井澤和司, 吉川健太郎, 滝田順子, 八角高裕. マクロファージ活性化症候群への移行にST合剤に対するアレルギー反応が寄与した可能性のある全身型若年性特発性関節炎の一例. 第34回日本小児リウマチ学会総会・学術集会. 2025.10.10-12 (千葉)
16. 仁平寛士, 園田素史. PRAJ-AID (自己炎症性疾患) - WG活動報告. 第34回日本小児リウマチ学会総会・学術集会. 2025.10.10-12 (千葉)

－研究会・学会地方会

1. 仁平寛士. X連鎖無ガンマグロブリン血症におけるガンマグロブリン補充療法後のトラフ値による感染症頻度の検討. 第15回九州地区免疫不全症セミナー. 2025.9.20(福岡)

－研究費－

1. 西小森隆太. AMED・難治性疾患実用化研究事業「小児全身性エリテマトーデスにおける新規診断・病勢マーカーの探索と有用性の検証」(研究開発分担者・新規) 50万円
2. 西小森隆太. AMED・難治性疾患実用化研究事業「インフラマソーム関連腸炎の病態解明ならびに診断法確立」(研究開発分担者・継続) 20万円
3. 西小森隆太. AMED・難治性疾患実用化研究事業「網羅的ゲノム解析のデータ二次利用に基づく原発性免疫不全症の広域診断体制構築に直結するエビデンス創出研究」(研究開発分担者・継続) 100万円
4. 西小森隆太. 厚生労働科研費・難治性疾患政策研究事業「自己炎症性疾患とその類縁疾患における、移行期医療を含めた診療体制整備、患者登録推進、全国疫学調査に基づく診療ガイドライン構築に関する研究」(研究代表者・継続) 684万円
5. 西小森隆太. 厚生労働科研費・難治性疾患政策研究事業「原発性免疫不全症候群の全国診療体制確立、移行医療体制構築、診療ガイドライン確立に関する研究」(研究分担者・継続) 100万円

代謝・遺伝

－論文－

1. Nishimura N, Mizuguchi T, Hamada K, Yuge K, Sakamoto M, Tsuchida N, Uchiyama Y, Fujita A, Koshimizu E, Misawa K, Miyatake S, Watanabe Y, Osaka H, Yoshiura KI, Ogata K, Matsumoto N. Hemizygous SMARCA1 variants cause X-linked intellectual disability. *J Hum Genet.* 2025 Jul;70(7):359-363. doi: 10.1038/s10038-025-01346-w. Epub 2025 May 2. PMID: 40316778.
2. Morishima S, Shimada Y, Watanabe Y, Ihara K. Characteristic Findings of Infants with Transient Elevation of Acylcarnitines in Neonatal Screening and Neonatal Weight Loss. *Int J Neonatal Screen.* 2025 Apr 29;11(2):33. doi: 10.3390/ijns11020033. PMID: 40407516; PMCID: PMC12101167.
3. Fujiyoshi K, Sugihara R, Miyamoto N, Watanabe Y, Sudo T, Numata S, Akiba J, Abe H, Ichinose Y, Inoue K, Ozono S, Ono T, Orioka K, Kashiwara M, Kajiwarra R, Kawano H, Kawahara A, Takase R, Toh U, Hashimoto K, Hisaka T, Hirai S, Mitsuoka M, Miyazaki D, Yoshitomi F, Yamamoto K, Umeno H, Nomura M, Naito Y. Comparison of Comprehensive Genomic Profiling Testing "Ion Torrent Genexus Sequencer" With FoundationOne. *Anticancer Res.* 2025 Aug;45(8):3479-3486. doi: 10.21873/anticancer.17709. PMID: 40750431.
4. Fujiyoshi K, Sugihara R, Miyamoto N, Watanabe Y, Sudo T, Numata S, Akiba J, Abe H, Ichinose Y, Inoue K, Ozono S, Ono T, Orioka K, Kashiwara M, Kajiwarra R, Kawano H, Kawahara A, Takase R, Toh U, Hashimoto K, Hisaka T, Hirai S, Mitsuoka M, Miyazaki D, Yoshitomi F, Yamamoto K, Umeno H, Nomura M, Naito Y. Comprehensive genetic profiling using tissue and blood in locally advanced tumors. *Oncol Rep.* 2025 Oct;54(4):134. doi: 10.3892/or.2025.8967. Epub 2025 Aug 8. PMID: 40776748; PMCID: PMC12351229.
5. Sawada T, Kido J, Tsukimura T, et al. Evaluation of *GLA* variants detected in newborn screening for Fabry disease using biomarker analysis. *Mol Genet Metab Rep.* 2025;44:101245. Published 2025 Aug 6. doi:10.1016/j.ymgmr.2025.101245
6. 片桐侑里子, 唐 宇飛, 渡邊秀隆, 杉原利枝, 朔 周子, 高尾優子, 主藤朝也, 三原勇太郎, 沼田早苗, 渡邊順子, 藤田文彦. 発症契機の異なる Li-Fraumeni 症候群に伴う若年性乳癌の2症例. 月刊臨床と研究(臨床

と研究). 102 (8). P876-880

—著書—

1. 渡邊順子. Fabry 病. 今日の小児治療指針 第18版. 医学書院
2. 福井香織. トンプソン & トンプソン 遺伝医学・ゲノム医学 第3版. 翻訳担当
症例 31 中鎖アシル CoA 脱水素酵素 (MCAD) 欠損症 P86-88
症例 36 オルニチントランスカルバミラーゼ欠損症 P102-104
3. 福井香織. 特集／遺伝カウンセリングを学ぼう！. 28 先天代謝異常症 小児科診療第88巻-8号. P1019-1025

—講演・シンポジウム—

—その他—

1. 渡邊順子. 先天代謝異常症の Up to Date：治療の進歩 第92回苦笑会. 2025.11.18 (福岡市)

—学会・研究会演題—

—国際学会—

1. Yoshino M, Takahashi T, Morisaki T. Effect of ammonia on intracellular energetic status. 6th International Symposium on Urea Cycle Disorders. 2025.9.1-2 (Kyoto, Japan).
2. Yoshino M, Takahashi T, Morisaki T. Succinyl-CoA synthetase reaction (succinate-forming) is a reasonable target of anaplerotic therapy for hyperammonemia. International Congress of Inborn Errors of Metabolism. 2025.9.2-6 (Kyoto, Japan)
3. Fukui K, Misawa Y, Tsutsumi H, Tamada A, Inoue K, Takase R, Watanabe Y. High-Dose Oral Mecobalamin Therapy in Mild cblC Deficiency with c.643T>C Variant: Two Case Reports. International Congress of Inborn Errors of Metabolism. 2025.9.2-6 (Kyoto, Japan)
4. Takase R, Azusa Tamada A, Yuri Misawa Y, Inoue K, Sato A, Tsutsumi H, Tomoko Ohira T, Fukui K, Makoto Yoshino M, Watanabe Y. Metabolic Stroke-like episode after Liver Transplantation in a Patient with Methylmalonic Acidemia: A Case Report International Congress of Inborn Errors of Metabolism. 2025.9.2-6 (Kyoto, Japan)
5. Miyagi Y, Takase R, Fukui K, Watanabe Y. A case of Infantile-Onset Pompe Disease treated with High-Dose Enzyme Replacement Therapy starting on day 31. International Congress of Inborn Errors of Metabolism. 2025.9.2-6 (Kyoto, Japan)
6. Tanaka S, Takase R, Ogawa T, Niimi S, Hiyoshi Y, Misawa Y, Inoue K, Fukui K, Takayama T, Watanabe Y. Screening and Registry Project for hereditary Urolithiasis Using Urine Mass Spectrometry. International Congress of Inborn Errors of Metabolism. 2025.9.2-6 (Kyoto, Japan)
7. Tamada A, Misawa Y, Inoue K, Sato A, Tsutsumi Haruna, Fukami K, Watanabe Y. Application of GC/MS-Based Urinary Metabolomics in the Diagnosis of Catecholamine Producing Tumors. International Congress of Inborn Errors of Metabolism. 2025.9.2-6 (Kyoto, Japan)
8. Fukui K, Misawa Y, Tsutsumi H, Tamada A, Inoue K, Takase R, Watanabe Y. High-Dose Oral Mecobalamin Therapy in Mild cblC Deficiency with c.643T>C Variant: Two Case Reports. International Congress of Inborn Errors of Metabolism. 2025.9.2-6 (Kyoto, Japan)
9. Watanabe Y, Muto M, Horinouchi T, Kinoshita M, Fukui K, Takase, Hiyoshi Y, Tanaka S, Akiba J, Seyama R, Uchiyama R, Matsumoto N, and Yoshizato T. Novel FLNA Mutation Causing Functional Urinary

Obstruction and Recurrent Lethal Outcome in Male Siblings. 2025.10.14-18 (Boston, USA)

10. Takase R, Otsu K, Yamakawa Y, Kiyomatsu K, Kagiya Y, Teramachi Y, Watanabe Y, bSuda K. GENOTYPE-PHENOTYPE CORRELATIONS IN CONGENITAL LONG QT SYNDROME: A SINGLE-CENTER RETROSPECTIVE STUDY 9th World Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery. 2025.12.7-12 (香港)

ー国内学会

1. 高瀬隆太, 清松光貴, 鍵山慶之, 福井香織, 寺町陽三, 岩永 聡, 橋川恵子, 室田浩之, 名嘉真武國, 須田憲治, 渡邊順子. 皮膚症状に先行して循環器症状を呈したPXEの小児例. 第47回日本小児遺伝学会学術集会 2025.2-28-3.1 (東京)
2. 福井香織, 松石登志哉, 高瀬隆太, 渡邊順子. 発達遅滞や青色強膜、関節弛緩を認める17q21.33q22欠失症例. 第47回日本小児遺伝学会学術集会. 2025.2-28-3.1 (東京)
3. 渡邊順子. 教育セミナー 成人PKUに対する新規治療の適応と実際. 第128回日本小児科学会学術集会 2025.4.18-20 (名古屋)
4. 高瀬隆太, 福井香織, 渡邊順子, 水落建輝. 拡大マスキングにより乳児型ポンペ病の診断に至ったベトナム人の1例. 第128回日本小児科学会学術集会 2025.4.18-20 (名古屋)
5. 高瀬隆太, 福井香織, 渡邊順子. 肝移植後に代謝性脳卒中を呈したメチルマロン酸血症の1例 第52回日本マスキング学会学術集会. 2025.10.3-4 (名古屋)
6. 渡邊順子. 精神科診療と先天代謝異常症の接点 ～フェニルケトン尿症(PKU)の精神神経症状を通して～. BPCNP2025合同学会(第55回日本神経精神薬理学会). 2025.11.13-15 (京都)
7. Takase R, Miyagi Y, Fukui K, Suda K, Watanabe Y. CLINICAL AND GENETIC INSIGHTS INTO CONGENITAL LONG QT SYNDROME: A SINGLE-CENTER RETROSPECTIVE STUDY 第70回日本人類遺伝学. 2025.12.17～20 (横浜)
8. 堀之内崇士, 武藤 愛, 柏田浩伸, 哲翁 晶, 阿座上舞, 岡村 優, 宗 邦夫, 清水隆弘, 横峯正人, 渡邊順子, 津田尚武. Trends and Impact of Non-invasive Prenatal Testing and Amniocentesis over Time at a Single Institution. 第70回日本人類遺伝学会. 2025.12.17-19 (横浜)
9. Nishimura N, Mizuguchi T, Hamada K, Yuge K, akamoto M, Tsuchida N, Uchiyama Y, Fujita A, Koshimizu E, Misawa K, iyatake S, Watanabe Y, Osaka H, Yoshiura K, Ogata K, Matsumoto N. Hemizygous *SMARCA1* variants cause X-linked intellectual disability. 第70回日本人類遺伝学会. 2025.12.17-19 (横浜)
10. 原 宗嗣, 福井香織, 山下大輔, 石井隆大, 小池敬義, 高瀬隆太, 渡邊順子, 才津浩智, 加藤光広. Clinical features of Cockayne syndrome type B in a Japanese girl: Novel ERCC6 compound heterozygous mutations found. 第70回日本人類遺伝学会. 2025.12.17-19 (横浜)

ーその他

1. 福井香織, 高瀬隆太, 渡邊順子. 31生日から高用量酵素補充療法を開始した乳児ポンペ病の1例. 第9回女性医師による九州先天代謝異常症ネットワークミーティング. 2025.5.17 (福岡)

ー研究費・受賞ー

1. 渡邊順子. 分担研究者 令和7年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「ライソゾーム病、ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを含む)における早期診断・早期治療を可能とする診療提供体制の確立に関する研究」責任者: 奥山虎之

2. 高瀬隆太. 文部科学省科学研究費若手研究「心臓突然死予防に向けた冠動脈起始異常の新規診断マーカーとリスク層別化因子の同定」(R7年度)

—その他—

1. 渡邊順子. 先天代謝異常学会ガイドライン作成編集委員 ポンペ病(奥山班) 脂肪酸代謝異常症(中村班)

(2024 記載もれ 2024.10.11-12)

—国内学会—

1. 松田勝也, 三好寛明, 森坪麻友子, 渡邊順子, 佐藤文彦, コーヘン, 上田真由, 三嶋博之, 木下 晃, 吉浦孝一郎, 光武範吏, 伊東正博, 中島正洋. 多巣性のDICER1 ミスセンス変異を伴う小児濾胞性甲状腺結節の1例 第28回日本臨床内分泌病理学会 学術総会. 2024.10.11-12 (長崎市)

血液・腫瘍

—論文—

1. Hirabayashi S, Wakamatsu M, Hasegawa M, Imaizumi T, Fujiwara K, Watanabe H, Mori M, Suzuki K, Saito S, Yoshida N, Mizoguchi Y, Miki M, Honda Y, Ozono S, Sakashita K, Aoki Y, Muramatsu H. Clinical Spectrum of Noonan Syndrome-Associated Myeloproliferative Disorder. Am J Hematol 2025 Dec 7.
2. Tso WW, Hudson MM, Lam CS, Wang Y, Tong GPY, Arora RS, Baticulon R, Cai J, Chen BW, Dalvi R, Gunasekera S, Hori H, Khan MS, Kim JY, Lee SHR, Leung LK, Mel M, Ozono S, Radhakrishnan V, Sapkota S, Li CK, Liu AP, Cheung YT. Navigating the challenges in and identifying the priorities for childhood cancer survivorship in Asia. Lancet Child Adolesc Health 2025 Dec;9(12):880-890.
3. Tso WWY, Hudson MM, Arora RS, Baticulon RE, Cai J, Chen BW, Dalvi R, Gunasekera S, Hori H, Khan MS, Kim JY, Lee SHR, Leung LK, Mel M, Ozono S, Radhakrishnan V, Sapkota S, Li CK, Liu AP, Cheung YT. Mapping of current resources and models of care for paediatric cancer survivors in Asia: a multinational survey. BMJ Glob Health 2025 Oct 23;10(10):e018816.
4. Fujiyoshi K, Sugihara R, Miyamoto N, Watanabe Y, Sudo T, Numata S, Akiba J, Abe H, Ichinose Y, Inoue K, Ozono S, Ono T, Orioka K, Kashihara M, Kajiwarra R, Kawano H, Kawahara A, Takase R, Toh U, Hashimoto K, Hisaka T, Hirai S, Mitsuoka M, Miyazaki D, Yoshitomi F, Yamamoto K, Umeno H, Nomura M, Naito Y. Comprehensive genetic profiling using tissue and blood in locally advanced tumors. Oncol Rep 2025 Oct;54(4):134.
5. Fujiyoshi K, Sugihara R, Miyamoto N, Watanabe Y, Sudo T, Numata S, Akiba J, Abe H, Ichinose Y, Inoue K, Ozono S, Ono T, Orioka K, Kashihara M, Kajiwarra R, Kawano H, Kawahara A, Takase R, Toh U, Hashimoto K, Hisaka T, Hirai S, Mitsuoka M, Miyazaki D, Yoshitomi F, Yamamoto K, Umeno H, Nomura M, Naito Y. Comparison of Comprehensive Genomic Profiling Testing "Ion Torrent Genexus Sequencer" With FoundationOne. Anticancer Res 2025 Aug;45(8):3479-3486.
6. Yoshizuka T, Ozono S, Ishii R, Obara H, Murotani K, Nagamitsu S, Yamashita Y, Mizuochi T. Psychological Distress among Japanese University Students after Parental Bereavement. Kurume Med J 2025 Nov 13;71(3.4):127-137.
7. Kouwenberg TW, van Dalen EC, Mulder RL, Armenian S, Feijen EAM, Chow EJ, Kosmidis H, Vormoor-Bürger BJ, Kiyotani C, Nathan PC, Kapusta L, Grotenhuis HB, Engels FK, Teske AJ, Tragiannidis A, Sliker MG, Ozono S, Nohria A, Sláma T, Skinner R, Hudson MM, Kremer LCM, Ehrhardt MJ, Mavinkurve-Groothuis AMC. IGHG Recommendations for Anthracycline and Anthraquinone Cardiac Dysfunction Equivalence Ratios After Childhood Cancer: JACC: CardioOncology Expert Panel. JACC CardioOncol 2025 Oct;7(6):683-690.

8. Eguchi K, Ishimura M, Ohga S, Endo S, Saito S, Kamimura S, Keino D, Kato S, Azuma Y, Watanabe A, Inoue A, Higa T, Ozono S, Fujita N, Watanabe K, Takahashi Y. Japan Childhood Aplastic Anemia Study Group. Adjunctive effects of eltrombopag on immunosuppressive therapy for childhood aplastic anemia. Int J Hematol 2025 Apr;121(4):533-542.
9. 山木勇人, 大園秀一, 島田 翔, 大石早織, 満尾美穂, 中川慎一郎, 山下裕史朗, 水落建輝. 胞巣型横紋筋肉腫治療後に発症した縦隔原発Tリンパ芽球性リンパ腫の男児例. 小児科臨床 2025 ; 78(2) : 217-221
10. 松尾陽子. 女性血友病と血友病保因者. 日本血栓止血学会誌 2025 : 36(1) ; 25-30
11. 島田 翔, 大園秀一, 満尾美穂, 中川慎一郎, 山下裕史朗, 愛甲崇人, 東舘成希, 古賀義法, 加治 建. 急性骨髄性白血病に合併した虫垂骨髄肉腫の1例. 日児血がん誌 2025 ; 61(5) : 401-405.

—著書—

1. 大園秀一. 小児白血病の長期フォローアップ. In「小児診療Knowledge & Skill」小児白血病の最新診療. 加藤元博総編集, 富澤大輔専門編集; 中山書店(東京) 2025年8月: p166-173(総ページ216) .

—講演・シンポジウム—

—その他

1. 松尾陽子. 女性血友病と保因者の課題. 第20回中国血友病治療セミナー. 2025.2.1(広島)
2. 島田 翔. 血友病について. 第46回筑後地区薬剤師合同フォーラム. 2025.2.21(久留米)
3. 松尾陽子. 女性血友病と保因者の課題. 世界希少・難病疾患の日勉強会. 2025.2.26 Web
4. 松尾陽子. 女性血友病と保因者の課題. 世界血友病デー特別企画. 2025.4.11 Web
5. 松尾陽子. 女性血友病と保因者の課題～血友病は男性だけの疾患ではありません～. 青森県血友病包括診療セミナー. 2025.4.25(青森)
6. 松尾陽子. 九州における診療連携体制の構築に向けて～かかりつけ医との連携～. Hemophilia meeting 2025. 2025.5.10(福岡)
7. 松尾陽子. 女性血友病と保因者の課題. 群馬血友病看護セミナー. 2025.7.4(群馬)
8. 大園秀一. 長期入院を経験した小・中・高校生の復学支援. 子供を地域で支える会・筑豊 2025.7.15(飯塚)
9. 大園秀一. 小児がん経験者が大人になるまで. NPO法人チャイルドホープ 講演会 2025.7.26(宮崎)
10. 島田 翔. 血友病. 藤本製薬社内研修会. 2025.9.11(久留米)
11. 松尾陽子. 保因者のマネジメント. Hope Next 2025. 2025.9.21(大阪)
12. 松尾陽子. 女性血友病と血友病保因者について. 北九州保因者セミナー. 2025.10.3(福岡)
13. 松尾陽子. 進化する血友病治療とSDM. 血友病未来会議 インターネットシンポジウム. 2025.10.8 Web
14. 満尾美穂. 未来の女性医師等発掘事業(福岡県主催) 福岡大学附属大濠中学・高等学校 講演 2025.10.11(福岡)
15. 松尾陽子. 見過ごされてきた出血リスク～血友病保因者女性のアンメットメディカルニーズ～. 九州山口血友病診療連携フォーラム. 2025.2025.10.28(福岡)

16. 松尾陽子. 進化する血友病治療とSDM ～患者と共に決める時代へ～. 血友病の個別化治療を考える会. 2025.11.5 (福岡)
17. 大園秀一. 未来への贈り物～フォローアップ手帳～. 「미래로의 선물 ～후속 관리 수첩～」小児がん関係者たちの日韓国際交流 基調講演 2025.11.22 (久留米)
18. 島田 翔. 血友病. 中外製薬社内研修会. 2025.12.5 (福岡)

一学会・研究会演題一

一国内学会

1. 大園秀一, 明井孝弘, 島田 翔, 満尾美穂, 鍵山慶之, 寺町陽三, 須田憲治, 水落建輝. 急性リンパ性白血病発病35年後に発症したアントラサイクリン心筋症の一例. 第128回日本小児科学会学術集会. 2025.4.18-20 (名古屋)
2. 島田 翔, 大園秀一, 明井孝弘, 満尾美穂, 水落建輝. COVID-19を契機に発症した溶血性貧血の1例. 第128回日本小児科学会学術集会. 2025.4.18-20 (名古屋)
3. 新居見真吾, 日吉祐介, 荒木潤一郎, 明井孝弘, 島田 翔, 満尾美穂, 大園秀一, 田中征治. 小児膜性腎症でミコフェノール酸モフェチル内服中に発症した悪性リンパ腫の1例. 第60回日本小児腎臓病学会学術集会. 2025.5.22-24 (名古屋)
4. 吉田寛樹, 橋詰直樹, 中原啓智, 倉八朋宏, 坂本早季, 升井大介, 東館成希, 古賀義法, 大園秀一, 三好寛明, 秋葉 純, 加治 建. 傍大動脈リンパ節に生じた, 進行性胚中心進展性異形成の1例. 第62回日本小児外科学会. 2025.6.5-7 (東京)
5. 東館成希, 上村慶一郎, 岩下将仁, 大園秀一, 島田 翔, 吉田寛樹, 中原啓智, 倉八朋宏, 坂本早季, 升井大介, 古賀義法, 橋詰直樹, 加治 建. 膀胱悪性腫瘍との鑑別が困難であったCystitis glandularisの1小児例. 第62回日本小児外科学会学術集会. 2025.6.5-7 (東京)
6. 佐伯 勇, 中島啓吾, 藤解 諒, 栗原 将, 茂藤優司, 大園秀一, 松本公一, 檜山英三. 小児がんフォローアップアプリ製作プロジェクト. 第62回日本小児外科学会学術集会. 2025.6.5-7 (東京)
7. 柏木孝仁, 安川秀雄, 小松誠和, 満尾美穂, 森美穂子. 今すぐできる! 3×Rから始めるメンタルヘルス系コーチング. ワークショップ. 第57回日本医学教育学会大会. 2025.7.25-27 (秋田)
8. 安川秀雄, 柏木孝仁, 小松誠和, 川本義巳, 満尾美穂, 山田 圭, 石竹達也. 久留米大学におけるコーチングプログラムの実践: 医学教育への導入と今後の展望. 第57回日本医学教育学会大会. 2025.7.25-27 (秋田)
9. 大園秀一, 明井孝弘, 島田 翔, 満尾美穂, 稲田浩子. 「フォローアップ中止した小児がん経験者における健康管理の現状調査」～フォロー継続者との比較研究～. 第67回日本小児血液・がん学会学術集会. 2025.11.19-21 (福岡)
10. 満尾美穂, 明井孝弘, 島田 翔, 中川慎一郎, 大園秀一. 小腸転移による腸重積症をきたした再発難治骨肉腫の1例. 第67回日本小児血液・がん学会学術集会. 2025.11.19-21 (福岡)
11. 明井孝弘, 島田 翔, 満尾美穂, 向井純平, 高瀬隆太, 渡邊順子, 大園秀一. たこつぼ型心筋症を契機に診断され, SDHB遺伝子変異を認めたパラガングリオーマの女児例. 第67回日本小児血液・がん学会学術集会. 2025.11.19-21 (福岡)
12. 野口磨依子, 古賀友紀, 川口健介, 東矢俊一郎, 横山智美, 上田圭希, 大場詩子, 中島健太郎, 満尾美穂, 大園秀一, 藤岡 寛, 吉本幸司, 中山秀樹. 腫瘍生検後に標的治療を実施したBRAFV600E変異陽性びまん性内在性橋膜腫の1例. 第67回日本小児血液・がん学会学術集会. 2025.11.19-21 (福岡)

13. 佐藤伊織, 小林京子, 大園秀一, 副島堯史, 野上由貴, 森 尚子, 岩井艶子, 前田美穂, 石田也寸志, 上別府圭子, 今井千速, 佐藤 篤, 加藤元博, 康 勝好, 真部 淳. 急性リンパ性白血病寛解導入療法中のデキサメタゾンが健康関連QOLに与える影響: プレドニゾロンとの比較. 第67回日本小児血液・がん学会学術集会. 2025.11.19-21 (福岡)
14. 小林京子, 石田也寸志, 佐藤伊織, 大園秀一, 上別府圭子, 副島堯史, 野上由貴, 加藤元博, 康 勝好, 真部 淳. Evaluation of Quality of Life in JCCG ALL-B12 Standard Risk: A Randomized Controlled Study. 第67回日本小児血液・がん学会学術集会 2025.11.19-21 (福岡)
15. 三善陽子, 橘真紀子, 岡田 賢, 家原知子, 石田也寸志, 大植孝治, 大園秀一, 清谷知賀子, 長 祐子, 前田尚子, 前田美穂, 松本公一, 湯坐有希, 米田光宏. 小児・AYA世代がん患者の栄養管理に関する小児腫瘍医対象のアンケート調査. 第67回日本小児血液・がん学会学術集会. 2025.11.19-21 (福岡)
16. 森 尚子, 長 祐子, 早川 晶, 早瀬朋美, 鈴木孝二, 加藤陽子, 大園秀一, 大曾根真也. 小児がん患者に対する緩和ケアのコンサルテーションシステム構築のためのJCCG参加施設におけるニーズ調査研究. 第67回日本小児血液・がん学会学術集会. 2025.11.19-21 (福岡)

ー研究会・学会地方会

1. 安元和博, 明井孝弘, 島田 翔, 満尾美穂, 新居見真吾, 日吉祐介, 田中征治, 大園秀一. 免疫抑制剤内服中に発症したEBV関連びまん性大細胞型リンパ腫の1例. 第30回九州山口小児血液・免疫・腫瘍研究会. 2025.1.11 (福岡)
2. 吉田寛樹, 橋詰直樹, 中原啓智, 倉八朋宏, 坂本早季, 升井大介, 東館成希, 古賀義法, 大園秀一, 三好寛明, 秋葉 純, 加治 建. 傍大動脈リンパ節に生じた, 進行性胚中心進展性異形成の1例. 第61回九州小児外科学会. 2025.2.7 (沖縄)
3. 安元和博, 明井孝弘, 島田 翔, 満尾美穂, 新居見真吾, 日吉祐介, 田中征治, 大園秀一, 西小森隆太, 水落建輝. ミコフェノール酸モフェチル内服中に発症したEBウイルス関連びまん性大細胞型リンパ腫の1例. 第528回日本小児科学会福岡地方会例会. 2025.3.8 (福岡)
4. 大園秀一, 平塚奈希. 事例提示 (9歳男児 骨肉腫). 第5回 臨床倫理セミナー in ちくご. 2025.3.22 (久留米)
5. 大園秀一, 明井孝弘, 島田 翔, 満尾美穂, 中川慎一郎, 音琴哲也, 中村英夫, 森岡基浩, 古賀友紀. びまん性脳幹部腫の3例. 第114回 九州・沖縄地区小児がん拠点病院 テレビ会議 症例検討. 2025.3.24 (福岡:Web開催)

ー研究費・受賞ー

1. 大園秀一 (代表). 令和7年度科学研究費助成事業. 基盤研究 (C) ロストオブフォローの小児がんサバイバーに対する二次がん検診促進の実証的研究. 課題番号 25K13404
2. 大園秀一. 厚生労働科学研究費補助金「小児がん拠点病院等及び成人診療科との連携による長期フォローアップ体制の構築のための研究」 課題番号 23EA1014 (班長: 松本公一) 令和7年度
3. 大園秀一. 日本医療研究開発機構 (AMED) 革新的がん医療実用化研究事業「若年性骨髄単球性白血病 (JMML) に対する標準的化学療法の確率を目指した第2相臨床試験」の開発. 課題管理番号: 23ck0106855h0001 研究開発分担者 (班長: 村松秀城) 令和7年度

ーその他ー

1. 大園秀一. 厚生労働省委託事業 小児血液・がん学会主催 令和6年度2回 小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会 (LCAS) 講師 2025.1.11 (名古屋: Web研修会)

2. 大園秀一. 厚生労働省委託事業 小児血液・がん学会主催 令和6年度3回 小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会(LCAS) 講師 2025.2.1(札幌:Web研修会)
3. 大園秀一. 厚生労働省委託事業 小児血液・がん学会主催 令和7年度1回 小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会(LCAS) 講師 2025.9.15(京都:Web開催)
4. 満尾美穂. 久留米大学学生交流会メディカルクロストーク(福岡県医師会主催) 2025.10.21(久留米)
5. 大園秀一. 厚生労働省委託事業 小児血液・がん学会主催 令和7年度2回 小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会(LCAS) 講師 2025.12.20(静岡:Web開催)
6. 大園秀一. がん医療に携わる医師に対するコミュニケーション技術研修会 ファシリテーター 2025.12.6-12.7(東京:Web開催)

腎泌尿器

—論文—

1. Iijima K, Sako M, Horinouchi T, Sakai T, Yamamura T, Hamada R, Ohtsuka Y, Tanaka S, Kamei K, Tanaka R, Kano Y, Kubota T, Shima Y, Morohashi T, Inaba A, Fujinaga S, Oka M, Kaito H, Konishi A, Nagano C, Nakanishi K, Ishikura K, Ito S, Nakamura H, Ghiggeri GM, Mori R, Omori T, Nozu K. Japanese Study Group of Kidney Disease in Children JSKDC10 Study. Rituximab-induced long-term remission in childhood-onset, uncomplicated, frequently relapsing or steroid-dependent nephrotic syndrome: a randomized, placebo-controlled trial and a follow-up study. *Sci Rep.* 2025 10;15:34306.
2. Hirano D, Fujimaru T, Sako M, Tanaka S, Inaba A, Uchimura T, Kamei K, Kubota T, Ohta T, Okamoto T, Tanaka H, Hamada R, Ito S. Recovery from rituximab-associated persistent hypogammaglobulinaemia in children with nephrotic syndrome. *Nephrol Dial Transplant.* 2025 28;40:967-977
3. Shiraki M, Kadowaki S, Miwa Y, Nishimura K, Maruyama Y, Kishida D, Imagawa K, Kobayashi C, Takada H, Mitsunaga K, Inoue Y, Ebato T, Miyamoto T, Hiejima E, Sato S, Migita K, Matsubayashi T, Kobayashi D, Hasegawa E, Kaneko U, Ishikawa T, Onodera M, Matsushita K, Koike Y, Umebayashi H, Kakuta F, Abukawa D, Funakoshi Y, Ishimura M, Otani Y, Nishizawa T, Ishige T, Hatori R, Tanaka S, Kusunoki S, Nakamura K, Shirai H, Hatai Y, Miyaoka F, Kaneko S, Shimbo A, Shimizu M, Kanegane H, Hashimoto M, Negoro N, Yoshida T, Wada Y, Usami M, Wada T, Izawa K, Yasumi T, Nishikomori R, Ohnishi H. Clinical characteristics and treatment strategies for A20 haploinsufficiency in Japan: a national epidemiological survey. *Front Immunol.* 2025 12;16:1548042.
4. Hamada R, Kaku Y, Inaba A, Kaito H, Kimata T, Kondo S, Sako M, Sato M, Sugimoto K, Tanaka S, Nagaoka Y, Nozu K, Hashimoto J, Miura K, Yamamoto M, Kawai F, Maruyama S, Ishikura K. A digest of the clinical practice guideline for pediatric idiopathic nephrotic syndrome 2020 updated: medical therapy. *Clin Exp Nephrol.* 2025 ;29:691-701.
5. 佐藤美晴, 吉田賢弘, 甲斐蘭七, 多々良一彰, 松下美由紀, 日吉祐介, 河野 剛, 秋田幸大, 田中征治. 初診時に腎機能障害と播種性血管内凝固を認め, 抗菌薬投与のみで治療可能であった高度膀胱尿管逆流を伴う多発腎膿瘍の1例. *日本小児腎不全学会雑誌.* 2025. (1341-5875) 45 巻 Page151-154
6. 末継智士(久留米大学 医学部小児科学講座), 新居見真吾, 北城恵史郎, 倉田悟子, 日吉祐介, 田中征治, 西小森隆太, 片渕瑛介, 山下裕史朗. 尿糖陽性を契機に診断した急性尿細管間質性腎炎. *日本小児腎不全学会雑誌.* 2025. (1341-5875) 45 巻 Page97-10

—著書—

1. 田中征治. 停留精巣診療ガイドライン第2版 2025

—講演・シンポジウム—

—国内学会—

—講演—

1. 田中征治. こんな時どうする？ 夜尿診療 ～短時間で診療するポイントと新たな診療連携～教育セミナー
1.第128回日本小児科学会. 2025.4.18 (名古屋)
2. 田中征治. 原発性高シュウ酸尿症とJ-HUGレジストリーの取り組み. 第60回小児腎臓病学会学術集会.
2025.5.22 (名古屋)
3. 田中征治. 知れば納得、始めたくなる！アトピー性皮膚炎の皮下注射治療. 第238回筑後小児科医会セミナー.
2025.7.31 (久留米)
4. 田中征治. 始めよう！アトピー性皮膚炎の皮下注射治療. 2025.10.23.全国web講演.

—学会・研究会—

—国際学会—

1. Seiji Tanaka, Tatsuya Takayama, Tomohide Ogawa, Yoriko Watanabe. Screening and Registry Project for hereditary Urolithiasis.Using Urine Mass spectrometry. 15th International Congress of Inborn Errors of Metabolism : ICIEM.2-6 Sep 2025 (Kyoto, Japan)
2. Shingo Niimi, Yusuke Hiyoshi, Seiji Tanaka. A Case of Complete Atrioventricular Block with Fluctuations in Renal Function. The21st Japan-Korea-China Pediatric Nephrology Seminar 2025 in Okinawa. 25 Sep 2025 (Okinawa, Japan)
3. Seiji Tanaka, Ryuta Takase, Tatsuya Takayama, Yoriko Watanabe. the Japanese Hereditary Urolithiasis Research Group (J-HUG).Project for hereditary UrolithiasisUsing Urine Mass spectrometry.57th ESPN Annual Meeting.15-18 October 2025 (Athens, Greece)

—国内学会—

1. 田中征治, 小川知英, 高山達也. 尿質量分析を用いた遺伝性尿路結石症のスクリーニングとレジストリ研究.
第35回日本尿路結石症学会学術集会.
2. 吉田賢弘 (雪ノ聖母会聖マリア病院 小児科), 日吉祐介, 佐藤美晴, 越智悠一, 前田靖人, 坂口廣高, 多々良一彰, 松下美由紀, 横地賢興, 高橋幸利, 河野 剛, 秋田幸大, 田中征治. 急性巣状細菌性腎炎罹患により発症した抗グルタミン酸受容体抗体陽性の自己免疫性脳炎の1例. 日本小児腎臓病学会.
3. 新居見真吾. 妊婦へのARB薬中止後に羊水量の改善を認めたARB fetopathy の1例. 第128回日本小児科学会学術集会. 2025.04.18-20 (名古屋)
4. 日吉祐介, 新居見真吾, 北城恵史郎, 荒木潤一郎, 倉田悟子, 田中征治, 嘉多山絵里. 膿疱性乾癬に伴うIgA腎症に有効であったIL-17A阻害薬の1例. 第60回日本小児腎臓病学会学術集会. 2025.5.22-24 (名古屋)
5. 機能的片腎に発症した治療抵抗性C3腎症. 第46回日本小児腎不全学会学術集会. 2025. 12.18-19 (箱根)

—研究会・学会地方会—

1. 新居見真吾, 日吉祐介, 田中征治. CICとビベグロン内服で膀胱コンプライアンスが改善した神経因性膀胱の1例. 第21回九州小児泌尿器研究会. 2025.02.15 (福岡)
2. 機能的片腎に発症した治療抵抗性C3腎症. 第38回九州小児ネフロロジー研究会学術集会. 2025.7.5-6 (熊本)

3. 尿中 β 2MG 値と病理像が乖離したシェーグレン病の尿細管炎. 第 27 回福岡小児腎疾患研究会. 2025.11.1 (福岡)

神経

—論文—

1. 原 宗嗣, 山下裕史朗, 弓削康太郎, 星野恭子, 室谷健太, 福水道郎. 神経発達症を有する幼児、小児及び青年期の睡眠障害患者を対象としたメラトニンの有効性及び安全性の検討 (Melmoe Study). 脳と発達 (in Press)
2. Yuge K, Kawahara Y, Sakai Y, Sato T, Kakuma T, Nishi A, Matsuishi T, Yamashita Y. Attenuated Orexinergic Signaling Underlies Sleep–Wake Problems in a Mecp2-null Mouse Model of Rett Syndrome. *Neurobiology of Disease* 214(2025)107035.
3. Kawahara Y, Ohnishi YN, Takahashi T, Kishikawa Y, Kuroiwa M, Yuge K, Kawahara H, Yamashita Y, Matsuishi T, Nishi A. Ghrelin restores D1 receptor-mediated dopamine neurotransmission and enhances attentive behaviour in Mecp2 KO mice. *Eur J Pharmacol.* 2025 Nov 7;1008:178352. doi: 10.1016/j.ejphar.2025.178352.
4. Nagamitsu S, Okada A, Sakuta R, Ishii R, Koyanagi K, Habukawa C, Katayama T, Ito M, Kanie A, Otani R, Inoue T, Kitajima T, Matsubara N, Tanaka C, Fujii C, Shigeyasu Y, Matsuoka M, Kakuma T, Horikoshi M. Usefulness of Interventions Using a Smartphone Cognitive Behavior Therapy Application for Children With Mental Health Disorders: Prospective, Single-Arm, Uncontrolled Clinical Trial. *JMIR.* 2025 vol.9 e60943
5. Inoue T, Iwanami J, Kuroiwa C, Mizukoshi M, Togashi K, Hatayama Y, Nagai A, Tomoda A, Douglas W. Woods, Ozawa H, Deguchi K, Hoshino K, Kobayashi M, Nonaka M, Matsuda N, Ishii R, Otani R, Nagamitsu S, Fuchigami T, Kitajima T, Fujita Y, Kano Y, Mizuno Y, Monden Y, Suzuki Y, Sakuta R. A randomized clinical trial of remote group-based comprehensive behavioral intervention for tics. *European Child & Adolescent Psychiatry.* 2025. doi:10.1007/s00787-025-02912-5
6. Hamanaka K, Fujita A, Miyatake S, Misawa K, Koshimizu E, Uchiyama Y, Tsuchida N, Seyama R, Sakamoto M, Iwama K, Nishimura N, Utsuno Y, Fu L, Takizawa M, Liang Q, Itai T, Saida K, Ohori S, Kameyama S, Fukuda H, Hayashi Y, Inoue Y, Goto T, Ichikawa K, Kuki I, Fukuoka M, Kim K, Shiohama T, Shimoda K, Otsuka K, Ueda Y, Cho K, Yuge K, Tachi N, Yoshida M, Daida A, Hirasawa K, Yanagishita T, Yamamoto T, Shirai K, Mehr TF, Fattal-Valevski A, Lev D, Yokoyama H, Iwabuchi E, Saito Y, Miura M, Sugai K, Ishiyama A, Sasaki M, Watanabe Y, Takanashi JI, Kim CA, Yokochi K, Tohyama J, Mori T, Izumi Y, Hasegawa Y, Okamoto N, Ikeda T, Osaka H, Kawai Y, Omae Y, Tokunaga K, Kato M, Mizuguchi T, Matsumoto N. Genome sequencing provides high diagnostic yield and new etiological insights for intellectual disability and developmental delay. *NPJ Genom Med.* 2025 Aug 26;10(1):60. doi: 10.1038/s41525-025-00521-4.
7. Nishimura N, Mizuguchi T, Hamada K, Yuge K, Sakamoto M, Tsuchida N, Uchiyama Y, Fujita A, Koshimizu E, Misawa K, Miyatake S, Watanabe Y, Osaka H, Yoshiura KI, Ogata K, Matsumoto N. Hemizygous SMARCA1 variants cause X-linked intellectual disability. *J Hum Genet.* 2025 May 2. doi: 10.1038/s10038-025-01346-w. Online ahead of print. PMID: 40316778
8. Yui K, Imataka G, Yuge K, Sasaki H, Shiohama T, Asada K and Tachiki H. The Development of Methods of BLOTCHIP[®]-MS for Peptidome: Small Samples in Tuberous Sclerosis. *Curr Issues Mol Biol* 2025;7:47(1):34.
9. Kwon JM, Munell F, Le Goff L, Yuge K, Kato T, Cances C, De Waele L, Woodcock IR, Mercuri EM, Proud CM, Darras BT, Hayes LH, Oskoui M, Visootsak J, Williams G, Ilić A, Yang L, van der Pol WL. Intrathecal onasemnogene abeparvovec for treatment-experienced patients with spinal muscular atrophy: a phase 3b, open-label trial. *Nat Med.* 2025 Dec 8. doi: 10.1038/s41591-025-04119-2. Online ahead of print. PMID: 41360995

—著書—

1. 石井隆大. 小児チック症診療ガイドライン. 臨時増刊号特集：小児診療ガイドラインのダイジェスト解説&プロGRESS 2025 Vol.66(12): 1326-1332. 金原出版雑誌. 2025.12
2. 石井隆大. 発達の気になる子の睡眠への対応. 小児内科 Vol.57 (12): 1554-1557, 2025.12
3. 石井隆大. 小児摂食症 プライマリ診療の手引き. 2025.10. (エキスパートパネル協力者)

—講演・シンポジウム—

—国内学会

—特別講演

—シンポジウム

1. 原 宗嗣. レット症候群とその周辺疾患：治療研究の最前線. 第67回日本小児神経学会学術集会. 2025.6.4 (鳥取)
2. 山下大輔. 漢方が小児心身症の未来を救う?! . 第50回日本東洋医学会九州支部学術総会. 2025.11.30 (福岡)

—セミナー

—一般演題

1. 原 宗嗣, 山下裕史朗, 弓削康太郎, 星野恭子, 福水道郎. 神経発達症を有する幼児, 小児及び青年期の睡眠障害患者を対象としたメラトニンの有効性及び安全性の検討 (Melmo Study). 第67回日本小児神経学会学術集会. 2025.6.4 (鳥取)
2. 福井香織, 高瀬隆太, 原 宗嗣, 三佐和由吏, 井上かおり, 山下哲矢, 弓削康太郎, 渡邊順子. ヒョレア、ジストニア、構音障害を主症状とする ECHS1 欠損症診断における、尿GC/MS分析の有用性. 第52回日本マススクリーニング学会学術集会. 2025.10.3-4 (名古屋)
3. 原 宗嗣, 福井香織, 山下大輔, 石井隆大, 小池敬義, 高瀬隆太, 渡邊順子, 才津浩智, 加藤光広. Clinical features of Cockayne syndrome type B in a Japanese girl: Novel ERCC6 compound heterozygous mutations found. 日本人類遺伝学会第70回大会. 2025.12.18 (横浜)
4. Kotaro Yuge, Jennifer M Kwon, Tamaki Kato, Gemma Williams, Ludo van der Pol, (on behalf of STRENGTH study group). Phase 3b STRENGTH Study: Intrathecal Onasemnogene Apeparvovec for Treatment-Experienced SMA Patients. 第43回日本神経治療学会. 2025.11.6 (熊本)
5. 西村直人, 水口 剛, 濱田恵輔, 弓削康太郎, 坂本正宗, 土田奈緒美, 内山由理, 藤田京志, 興水江里子, 三澤計治, 宮武聡子, 渡邊順子, 小坂 仁, 吉浦孝一郎, 緒方一博, 松本直通. Hemizygous SMARCA1 variants cause X-linked intellectual disability. 日本人類遺伝学会第70回大会. 2025.12.19 (横浜)
6. 小池敬義, 山下哲矢, 阪田健祐, 後藤康平, 山下大輔, 石井隆大, 弓削康太郎, 原 宗嗣. 乳児期後期の進行する視力障害とミオクロヌスがあり診断された神経セロイドリポフスチン症5型の1例. 第67回日本小児神経学会学術集会. 2025.6.5 (鳥取)
7. 石井隆大, 山下哲矢, 吉塚梯子, 山下大輔, 後藤康平, 小池敬義, 原 宗嗣. 特徴的な巻き舌上の舌変形を認めた多発性関節拘縮と筋力低下を認めた10歳女児. 第67回日本小児神経学会学術集会. 2025.6.4 (鳥取)
8. 石井隆大, 水落建輝. 癇癇や苛立ちへの対応としての外在化的支援：AI活用の可能性. 第72回九州学校保健学会～こどもに健やかな睡眠を～. 2025.8.24 (福岡)
9. 石井隆大. 家族病理を探る－不登校と起立性調節障害の交差点にあるもの. 第16回日本子ども虐待医学会学術集会. 2025.8.23-24 (Up to Date レクチャー) (オンデマンド配信))

10. 石井隆大. 小児科臨床における“家族と共にある”支援 –親の精神的困難と向き合う時–. 第43回日本小児心身医学会学術集会. 2025.9.20(公募企画)(東京)
11. 中澤綾華, 吉良晴子, 石井隆大. 競技をやめる選択が回避・制限性食物摂取症の回復を促した一例: 母子への心理支援の観点から. 第43回日本小児心身医学会学術集会. 2025.9.20(東京)
12. 山下大輔, 山下哲矢, 松行圭吾, 阪田健祐, 後藤康平, 石井隆大, 小池敬義, 原 宗嗣, 田中聡子, 恵上英昭. 「フクロウ外来」受診患者のプロファイルと苓桂朮甘湯内服による治療効果の検討. 第67回日本小児神経学会学術集会. 2025.6.4(鳥取)
13. 山下大輔, 石井隆大, 水落建輝. 「登校支援外来」の患者プロファイル. 第43回日本小児心身医学会学術集会. 2025.9.20. (東京)
14. 山下哲矢, 阪田健祐, 石井隆大, 小池敬義, 弓削康太郎, 原 宗嗣. Ga シンチで左腸骨に集積を認めた抗 NMDA 受容体抗体脳炎の11歳女児. 第67回日本小児神経学会学術集会. 2025.6.6(鳥取)
15. 金堂円太郎, 山下哲矢, 松行圭吾, 阪田健祐, 山下大輔, 石井隆大, 弓削康太郎, 小池敬義, 原 宗嗣. キニジン塩酸塩を投与したCHRND病的バリエーションをもつスローチャンネル症候群の8歳女児例. 第67回日本小児神経学会学術集会. 2025.6.4(鳥取)

一研究会・学会地方会

1. 石井隆大. 小児科医が見た不登校 ころをつなぎ未来をひらく“人間の力”. 第21回九州思春期研究会. 2025.2.16(福岡)
2. 石井隆大, 山下大輔, 水落建輝. “食べれば治る”ではない: 小児摂食障害の急性期治療の落とし穴. 第55回筑後地区輸液栄養 NST 研究会. 2025.11.18(福岡)
3. 山下哲矢, 阪田健祐, 松行圭吾, 石井隆大, 弓削康太郎, 小池敬義, 河野 剛, 松石豊次郎, 原 宗嗣. 乳児期より反復する有熱時けいれん発作と軽度の運動発達の遅れを有する2歳4か月の女児. 第98回日本小児神経学会九州地方会. 2025.1.12(大分)
4. 山下哲矢, 原 宗嗣, 松行圭吾, 山下大輔, 石井隆大, 小池敬義, 高瀬隆太, 福井香織, 渡邊順子, 水落建輝. 歩容異常、発語不明瞭を指摘された2歳2か月女児. 第99回日本小児神経学会九州地方会. 2025.8.3(福岡)

一その他一

一講演

1. 原 宗嗣. 国内外の臨床研究の動向. 2025 レット症候群とその周辺疾患の臨床調査研究班公開シンポジウム. 2025.3.22(大阪)
2. 原 宗嗣. 小児科医ってどんな仕事? 脳と遺伝から子どもを診るということ. 久留米大学附設中学校・高等学校 令和7年度進路講座 第8講座. 2025.10.18(久留米)
3. 弓削康太郎. 乳幼児の発達－神経発達症を中心に－. 大牟田市保健センター. 2025.8.25(福岡)
4. 小池敬義. 先天性サイトメガロウイルス感染症後にてんかん発症し難治に経過している1例. 第6回西日本小児科てんかんカンファレンス. 2025.3.27(Web)
5. 小池敬義. Dravet症候群, およびLennox Gastaut症候群の当科における診療状況. 日本新薬社内研修会. 2025.8.26(久留米)
6. 小池敬義. 小児てんかんの特徴. 重症心身障害看護師研修会. 2025.11.16(久留米)

7. 小池敬義. 小児のてんかんと支援 ～トランジションに繋げるには～. 第2回久留米地域包括ケアシステム研修会(医療的ケア児・者に関する研修会) てんかん研修会. 2025.12.23(久留米)
8. 山下哲矢. SMA のリハビリ・運動機能について. 中外製薬株式会社 社内研修会. 2025.12.16(久留米)

－班会議

1. 原 宗嗣. 厚生労働省難治性疾患政策研究事業「レット症候群とその周辺疾患の臨床調査研究」研究班. 2025.6.4(米子)
2. 渡邊順子, 原 宗嗣, 高瀬隆太, 福井香織, 沼田早苗, 西小森隆太. 未診断疾患イニシアチブ(Initiative on Rare and Undiagnosed Disease (IRUD)): 希少・未診断疾患に対する診断プログラム基盤の開発と患者還元を推進する研究高度協力病院; 「久留米大学病院における IRUD 診断診断委員会の現状. 日本医療研究開発機構 難治性疾患実用化研究機構. 2025.12.5(東京)

－記念誌、新聞、テレビ、ラジオ

1. 石井隆大. ICT を用いた小児保健. 小児科診療 UP-to-DATE. ラジオ NIKKEI. 2025.6.10
2. 石井隆大. 不登校児童に対する ICT を活用した支援に関する調査結果について. 久留米大学プレスリリース. 2025.10.15
3. 石井隆大. 共に歩む: 不登校児童支援における ICT 活用と多職種連携の展望. 小児保健研究 第84巻 第5号. 2025
4. 山下大輔. 「怠け」じゃない病に理解を. 読売新聞. 2025.10.3
5. 山下大輔. 思春期の不調広がる対策. 読売新聞. 2025.10.3

－研究費・受賞－

1. 原 宗嗣. 厚生労働科学研究費補助金.(難治性疾患政策研究事業). レット症候群とその周辺疾患の臨床調査研究. 80万円(分担)
2. 弓削康太郎. 文部科学研究費 基盤研究(若手)「レット症候群のグレリン投与による治療メカニズムの解明～睡眠障害を改善できるか～」137万円(代表)
3. 石井隆大. 文部科学研究費 基盤研究(C)「精神疾患患者の子どもへの支援の必要性を可視化する: ツール開発と効果検証」5万円(分担)

新生児

－論文－

1. Sakota Y, Matsumoto T, Yamaguchi M, Tajiri M, Yoshida K, Maeno Y. Analysis of the effectiveness of early intervention on carbapenem antibiotic use. Cureus 17(6): e86390. DOI 10.7759/cureus.86390
2. Hashizume N, Sakamoto S, Kinoshita M, Masui D, Higashidate N, Koga Y, Mizouchi T, Kaji T. Cerebral Infarction During Laparoscopic Ovarian Cystectomy in a Neonate: A Case Report. Asian J Endosc Surg 2025 Jan-Dec;18(1):e70071.doi: 10.1111/ases.70071.
3. 甲斐蘭七, 木下正啓, 海野光昭, 原田英明, 前野泰樹. 産科クリニックに対する新生児仮死への遠隔ビデオ通話を用いたブリーフィングと蘇生支援. 日本周産期・新生児医学会雑誌. 2025; 61(2): 419-423

ー講演・シンポジウムー

ー国際学会

1. Maeno Y. Diagnosis and Classification of Fetal Tachyarrhythmia. The 20th Congress of World Federation for Ultrasound in Medicine and Biology. 2025.5.29-6.1 (Kyoto)

ー国内学会

1. 前野泰樹. ファントムで「教える」胎児心エコー. 第31回日本胎児心臓病学会学術集会. 2025.2.22-23 (福山)
2. 前野泰樹. ワークショップ, 胎児心不全の定義を考える 3. 胎児不整脈から考える胎児心不全. 日本超音波医学会第98回学術集会. 2025.5.30-6.1 (京都)

ー研究会・地方会ー

1. 前野泰樹. 教育講演: 胎児循環から新生児循環管理を再考する. 第20回日本周産期循環管理研究会. 2025.5.24-25 (福岡)
2. 木下正啓. 小児等地域療育支援病院の現状と展望について. 小児在宅懇話会 2024.9.28 (福岡)
3. 前野泰樹. 周産期搬送と telemedicine への発展. 第3回大阪府医師会 周産期医療研修会. 2025.10.5 (大阪)
4. 前野泰樹. 胎児不整脈の評価方法. 第10回レベルII胎児心エコー講習会. 2025.12.14 (web東京)

ー学会発表

ー国内学会

1. 久保雄太郎, 嶺間澤昌史, 原 直子, 緑川浩子, 中村美彩, 木下正啓, 鍵山慶之, 須田憲治, 水落建輝. 先天性乳び胸に合併した動脈管開存症に対する経皮的動脈管閉鎖術による治療. 第回日本小児科学会学術集会. 2025.4.18-20 (名古屋)
2. 甲斐蘭七, 前田靖人, 津田恵太郎, 鍵山慶之, 家村素史, 須田憲治, 前野泰樹. 急速な経過で心原性ショックを来した房室回帰頻拍の新生児例. 第61回日本小児循環器学会総会・学術集会. 2025.7.10-12 (三重)
3. 三好剛一, 金 基成, 島田衣里子, 漢 伸彦, 加藤愛章, 前野泰樹. 胎児心室頻拍の全国調査. 第61回日本小児循環器学会総会・学術集会. 2025.7.10-12 (三重)
4. 寺町陽三, 前野泰樹, 大津生利衣, 山川祐輝, 清松光貴, 鍵山慶之, 高瀬隆太, 須田憲治. 当院における過去10年間の胎児徐脈性不整脈の検討. 第61回日本小児循環器学会総会・学術集会. 2025.7.10-12 (三重)
5. 永田 弾, 西畠 信, 前野泰樹, 漢 伸彦, 川村順平, 寺町陽三, 杉谷雄一郎, 原田雅子, 土井大人, 原 卓也, 岡田清吾. 九州地区における重症先天性心疾患の胎児診断率. 第61回日本小児循環器学会総会・学術集会. 2025.7.10-12 (三重)
6. 海野光昭. 院外で出生した新生児仮死における出生から搬送依頼までの時間の経年的変化. 第61回日本周産期・新生児医学会学術集会. 2025.7.13-15 (大阪)
7. 梶原 悠, 海野光昭, 原田英明, 前野泰樹. 当院における過去10年間のダウン症候群の比較検討と染色体検査の実際. 日本新生児成育医学会学術集会. 2025.11.13-15 (横浜)
8. 前野泰樹, 原田英明, 海野光昭, 古賀由紀, 井上悠香里, 村上歌奈子. 遠隔動画通信を利用した先進的な新生児搬送の取り組み. 第75回聖マリア医学会学術集会. 2025.12.6 (久留米)

ー研究会・学会地方会

1. 甲斐蘭七, 木下正啓, 海野光昭, 原田英明, 前野泰樹. 産科クリニックで無痛分娩中の胎児機能不全に対し出生前からのビデオ通話で円滑な蘇生介入が行えた一例. 第528回日本小児科学会地方会. 2025.3.8 (福岡)

2. 野見山莉子, 大津生利衣, 徳富謙太郎, 久保雄太郎, 中村美彩, 緑川浩子, 嶽間澤昌史, 原 直子, 木下正啓, 海野聡子, 須田憲治, 水落建輝. 左肺無形成に性分化疾患を合併した1例. 第528回日本小児科学会福岡地方会例会. 2024.3.8 (福岡)
3. 木下正啓, 久保雄太郎, 嶽間澤昌史, 原 直子, 緑川浩子, 中村美彩, 徳富謙太郎, 前野泰樹. 新生児期における胎児発育不全が大血管に与える影響. 第60回日本新生児成育医学会学術集会. 2024.7.13-15 (大阪)
4. 浦元華子, 木下正啓, 大武瑞樹, 久保雄太郎, 中村美彩, 原 直子, 緑川浩子, 嶽間澤昌史, 橋詰直樹, 古賀義法, 加治 建. 新生児胃破裂に伴った腸管膜を貫通する小腸の走行異常を認めた一例. 第60回日本周産期・新生児医学会学術集会. 2024.7.13-15 (大阪)
5. 佐藤美晴, 浦本華子, 梶原 悠, 中村美和子, 木下正啓, 海野光昭, 原田英明, 前野泰樹. 帽状腱膜下血腫重症例の臨床的特徴. 第530回日本小児科学会福岡地方会. 2025.9.13 (福岡)
6. 浦元華子, 海野光昭, 佐藤美晴, 梶原 悠, 中村美和子, 原田英明, 堤 千代, 井出悠一郎, 前野泰樹. NICU入院時の25水酸化ビタミンD血中濃度の検討. 第531回日本小児科学会福岡地方会. 2025.12.13 (福岡)

—研究費・受賞—

1. 木下正啓. 日本医療研究開発機構 (AMED) 成育疾患克服等総合研究事業 「新生児低酸素性虚血性脳症のLOX-1による重症度診断と中和抗体による治療法の開発」 研究開発分担者

—その他—

1. 木下正啓. 母乳バンク 早産の子救う. 読売新聞. 2025.5.8

内分泌

—学会・研究会演題—

—国内学会—

1. 石本隆浩. ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群を契機に判明したFrasier症候群の3歳女児例. 第8回日本内分泌学会九州沖縄地方会. 2025.2.23 (福岡)
2. 齊木玲央. 久留米市で2024年度に実施した小中学生学校健診の体重・体格異常検出基準に関する報告. 第529回日本小児科学会福岡地方会例会. 2025.6.14 (福岡)
3. 海野聡子, 石本隆浩, 齊木玲央, 古賀木綿子, 日野 綾, 喜多村美幸, 西岡淳子. 久留米市における学校健診成長曲線活用事業の構築と初年度の実績と課題. 第25回日本内分泌学会九州支部学術集会. 2025.8.30 (久留米)

—その他—

1. 海野聡子. 久留米市学校健診における成長曲線活用の現状と課題. 久留米医師会学校保健部会学術講演会 2025.2.20 (久留米)
2. 海野聡子. こどもの成長を見守る～成長曲線活用Tips 八女医師会. 2025.4.21 (八女)
3. 齊木玲央. 7年ぶりにみた大学での内分泌診療. 第368回 筑豊小児科医会勉強会. 2025.6.18 (筑豊)
4. 海野聡子. 身長・体重の“その先”を診る：久留米市での成長曲線活用と地域連携. 子どもの成長を考えるフォーラム in 広島. 2025.9.22 (広島)

—企業治験—

1. Real5：SGA「2歳又はそれ以上の年齢においても成長のcatch-upがみられなかったSmall for Gestational

Age性低身長症患者を対象として、somapacitanの週1回投与の有効性及び安全性を1日1回投与のNorditropin®と比較検討する用量設定試験」. 対象疾患：SGA性低身長症. ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

2. JCR-142の小児成長ホルモン分泌不全性低身長症患者を対象とした第Ⅲ相試験. 対象疾患：小児成長ホルモン分泌不全性低身長症. JCR ファーマ株式会社

ーその他

1. 海野聡子.『学校健診から希少疾病を見つける取り組みについてー小児医療現場からー』アトル株式会社社内講演会. 2025.8.22
2. 海野聡子.「親の‘迷い’にどう寄りそう？成長ホルモン治療の最前線」 JCR ファーマ株式会社社内講演会. 2025.6.27
3. 海野聡子.「成長ホルモン治療の現場とこれから 学校健診から見える課題」ノボノルディスクファーマ株式会社社内講演会. 2025.9.30

ーインタビューー

1. 海野聡子.「小児成長ホルモン分泌不全性低身長症患者に対するJR-142の週1回投与試験(JR-142-301試験)」について. News Letter. 2025.12.2

感染症

ー論文ー

1. Gotoh K, Hamada N, Kashiwagi T, Hara K, and Watanabe H. Identification of pathogens causing fever in returning travelers using next-generation sequencing. Trop Med Health. 2025 Jun 13;53(1):80. doi: 10.1186/s41182-025-00763-z.
2. Gotoh K, Kakimoto K. Transition of yellow fever immunization environment in Japan. J Infect Chemother. 2025 Mar 21;102685. doi: 10.1016/j.jiac.2025.102685.
3. Miyake A, Gotoh K, Shima S, Okumiya K, Nishikomori R, Mizuochi T. Early diagnosis of chronic granulomatous disease and McLeod syndrome via the use of a next generation sequencing. Pediatr Int. 2025 Jan-Dec;67(1)
4. Miyake A, Gotoh K, Miyazaki H, Okumiya K, Tanaka Y, Mizuochi T, Watanabe H. Molecular epidemiology and pathogenicity analysis of community-acquired MRSA in Japanese children with a severe or recurrent infection. J Infect Chemother. 2025 Nov;31(11):102824.
5. Tsuchihashi Y, Tamura K, Matsumoto K, Mitsushima S, Fujiya Y, Kuronuma K, Tanabe Y, Kasahara K, Maruyama T, Gotoh K, Nakamatsu M, Oshima K, Abe S, Nishi J, Arakawa Y, Ikebe T, Sunagawa T, Akeda Y, Oishi K, the Adult STSS Study Group. Comparative analysis of streptococcal toxic shock syndrome caused by three β -hemolytic streptococcal species in Japan. International Journal of Infectious Diseases 2025 Sep;158:107962. doi: 10.1016/j.ijid.2025.107962.
6. Isawa M, Tokunaga Y, Tominaga M, Yamada H, Sudou M, Sumita S, Tokisawa S, Okumiya K, Houjou K, Gotoh K, Nishikomori R, Kawayama T, Hoshino T, Manabe T. A Case of X-linked Agammaglobulinemia First Diagnosed in Adulthood with Recurrent Pneumonia and Multiple Warty Skin Nodules. Internal Medicine. 2025 Jul 3
7. 金堂円太郎, 三宅 淳, 宮崎裕之, 屋宮清仁, 後藤憲志, 平木 陽, 音琴哲也, 梅野博仁, 森岡基浩, 渡邊 浩,

水落建輝. 当院で経験した感染経路の異なった小児の硬膜下膿瘍2症例の検討. 久留米醫學會雜誌. 2025;88 P88-89

—シンポジウム・講演—

—国内学会—

1. 後藤憲志. シンポジウム4、新しいトラベルクリニック：トラベルクリニックのこれからの課題. 第29回日本渡航医学会学術集会. 2025.7.19 (奈良)

—その他—

1. 後藤憲志. 薬剤耐性菌感染症の現状. 第27回福岡県薬剤師会 筑後地区感染制御学研修会. 2025.1.17 (久留米)
2. 後藤憲志. みんなを守る予防接種. みやざき小児ワクチンセミナー2025. 2025.5.15 (宮崎)
3. 後藤憲志. 海外で広がる“防げる脳炎” ダニ媒介脳炎の真のリスクと予防戦略. 海外渡航者が知るべき！ダニ媒介脳炎のリスクと予防ワクチンWEBシンポジウム. M3.com web講演会. 2025.11.26
4. 屋宮清仁. 小児病棟プレイルームにおける環境菌の調査 小児病棟プレイルームにおける環境菌の調査－イオンレス®次亜塩素酸水の空間噴霧による環境菌の変化の検証－. 第40回日本環境感染学会学術集会. 2025.7.11 (横浜)

—学会・研究会演題—

—国際学会—

1. Gotoh K, Miyazaki H, Watanabe H. Pathophysiological analysis of invasive infection caused by non-typeable *Haemophilus influenzae*. U.S.-Japan Cooperative Medical Sciences Program (USJCMSP) 25th International Conference on Emerging Infectious Diseases in the Pacific Rim, Acute Respiratory Infection Panel Meeting. 2025.3.15 (Tokyo, Japan)
2. Gotoh K, Miyazaki H, Miyake A, Okumiya K. Elucidation of the mechanisms controlling biofilm Formation of non-Typeable *haemophilus influenzae* derived from invasive infections. The 43th European Society of Paediatric Infectious Diseases (ESPID) 2025.5.26-30 (Bucharest, Romania)
3. Okumiya K, Miyake A, Miyazaki H, Gotoh K. Analysis of the invasive Group B *Streptococcus* infection case by horizontal transmission in the NICU. The 43th European Society of Paediatric Infectious Diseases (ESPID) 2025.5.26-30 (Bucharest, Romania)
4. Miyake A, Miyazaki H, Okumiya K, Gotoh K, Watanabe H. Two cases of *Gordonia* bacteremia that occurred over a period of one and a half months in a pediatric ward. The 43th European Society of Paediatric Infectious Diseases (ESPID) 2025.5.26-30 (Bucharest, Romania)
5. Miyazaki H, Miyake A, Okumiya K, Gotoh K, Watanabe H. Effect of hypochlorous acid water on drug-resistant bacteria. The 43th European Society of Paediatric Infectious Diseases (ESPID) 2025.5.26-30 (Bucharest, Romania)

—国内学会—

1. 島 さほ, 川口 敦. かわさき小児救命・集中治療センター～遠隔診療モバイルカートが活動中！～. 第52回日本集中治療医学会学術集会. 2025.3.14-16 (福岡)
2. 金堂円太郎, 三宅 淳, 山川祐輝, 宮崎裕之, 屋宮清仁, 向井純平, 後藤憲志, 水落建輝. 当院で経験した小児の硬膜下膿瘍2症例の検討. 128回日本小児科学会学術集会. 2025.4.18-20 (名古屋)
3. 後藤憲志, 宮崎裕之, 三宅 淳, 渡邊 浩. 教育講演18、わが国における輸入感染症の現状と課題. 第99回日本感染症学会学術講演会, 第73回日本化学療法学会総会 合同学会. 2025.5.8-10. (横浜)

4. 三宅 淳, 宮崎裕之, 屋宮清仁, 後藤憲志, 渡邊 浩. 小児科病棟において1か月半の間に発生した *Gordonia* 属菌血症2症例の分子生物学的検討. 第99回日本感染症学会学術講演会 第73回日本化学療法学会総会 合同学会. 2025.5.8-10 (横浜)
5. 宮崎裕之, 渡邊 浩, 後藤憲志, 屋宮清仁, 三宅 淳. *Burkholderia cepacia* complexによる化膿性リンパ節炎から慢性肉芽腫症の診断に至った一例. 第99回日本感染症学会学術講演会 第73回日本化学療法学会総会 合同学会. 2025.5.8-10 (横浜)
6. 宮崎裕之, 後藤憲志, 渡邊 浩. 5年間渡航歴のないカンボジア人の肺吸虫と肝吸虫の混合感染の一例. 第29回日本渡航医学会学術集会. 2025.7.19-20 (奈良)
7. 屋宮清仁, 宮崎裕之, 三宅 淳, 後藤憲志, 西小森隆太. X連鎖性無ガンマグロブリン血症3例の血清IgG値と発熱の頻度に関する検証. 第57回日本小児感染症学会総会・学術集会. 2025.11.8-9 (浦安)
8. 三宅 淳, 宮崎裕之, 屋宮清仁, 後藤憲志. 小児難治性MRSA感染症における遺伝子解析法を用いた病原因子と疫学調査. 第57回日本小児感染症学会総会・学術集会. 2025.11.8-9 (浦安)
9. 宮崎裕之, 三宅 淳, 屋宮清仁, 後藤憲志. 過去10年における小児渡航者のワクチン接種の動向とまとめ. 第57回日本小児感染症学会総会・学術集会. 2025.11.8-9 (浦安)
10. 山木勇人, 宮崎裕之, 三宅 淳, 屋宮清仁, 後藤憲志. *Burkholderia cepacia* complexによる化膿性リンパ節炎から慢性肉芽腫症の診断に至った一例. 第57回日本小児感染症学会総会・学術集会. 2025.11.8-9 (浦安)

—研究会・地方会

1. 島 さほ, 川口 敦, 長江千愛, 勝田友博, 豊福悦史, 清水直樹. 小児重症HLHにおけるEBウイルス関与の評価治療戦略を考える一例. 第386回日本小児科学会神奈川県地方会. 2025.9.20 (横浜)

—研究費・受賞—

1. 後藤憲志. 文部科学研究費 基盤(C)「無莢膜型インフルエンザ菌が侵襲性感染症を引き起こす病態に関する研究」(令和5年度～7年度)
2. 屋宮清仁. 文部科学研究費 基盤(C)「Group B streptococcusが定着を持続するための病原因子に関する研究」(令和7年度～9年度)
3. 後藤憲志. 厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業「成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの強化のための研究」(代表 明田幸宏) 2025年～2027年度
4. 後藤憲志. 厚生労働行政推進調査事業費補助金(厚生労働科学特別研究事業)「国内未承認輸入トラベラーズワクチンの使用実態とセーフティーネット整備状況の調査研究」(代表 中野貴司) 2025年

小児救急

—講演・シンポジウム—

—研究会・学会地方会

1. 向井純平. 第172回小児診療初期対応コース(JPLS)コース講師. 2025.02.16 (久留米)
向井純平. 第176回小児診療初期対応コース(JPLS)コース講師. 2025.05.11 (佐賀)

—学会・研究会演題—

—国内学会

1. 向井純平, 清松光貴, 山川祐輝, 鍵山慶之, 高瀬隆太, 寺町陽三, 須田憲治, 水落建輝. たこつぼ心筋症で発症したパラガングリオーマの1例. 第38回日本小児救急医学会学術集会. 2025.07.04-06 (東京)

－研究会・学会地方会

1. 藤堂瑞葵, 向井純平, 鍵山慶之, 山川祐輝, 清松光貴, 高瀬隆太, 寺町陽三, 須田憲治, 水落建輝. たこつぽ型心筋症で発症した褐色細胞腫／パラガングリオーマの1例. 第528回日本小児科学会福岡地方会例会. 2025.03.08 (福岡)
2. 清松光貴, 向井純平, 東 加奈子, 賀来典之, 水落建輝. 白血球増多に対して交換輸血を行った生後5か月の乳児百日咳. 第24回九州・沖縄小児救急医学研究会. 2025.08.30 (福岡)

小児心身症

－論文－

1. Nagamitsu S, Okada A, Sakuta R, Ishii R, Koyanagi K, Habukawa C, Katayama T, Ito M, Kanie A, Otani R, Inoue T, Kitajima T, Matsubara N, Tanaka C, Fujii C, Shigeyasu Y, Matsuoka M, Kakuma T, Horikoshi M. Usefulness of Interventions Using a Smartphone Cognitive Behavior Therapy Application for Children With Mental Health Disorders: Prospective, Single-Arm, Uncontrolled Clinical Trial. JMIR. 2025 vol.9 e60943
2. Inoue T, Iwanami J, Kuroiwa C, Mizukoshi M, Togashi K, Hatayama Y, Nagai A, Tomoda A, Douglas W. Woods, Ozawa H, Deguchi K, Hoshino K, Kobayashi M, Nonaka M, Matsuda N, Ishii R, Otani R, Nagamitsu S, Fuchigami T, Kitajima T, Fujita Y, Kano Y, Mizuno Y, Monden Y, Suzuki Y, Sakuta R. A randomized clinical trial of remote group-based comprehensive behavioral intervention for tics. European Child & Adolescent Psychiatry. 2025. doi:10.1007/s00787-025-02912-5

－著書－

1. 石井隆大. 小児チック症診療ガイドライン. 臨時増刊号特集：小児診療ガイドラインのダイジェスト解説＆プログレス2025 Vol.66 (12): 1326-1332. 金原出版雑誌. 2025.12
2. 石井隆大. 発達の気になる子の睡眠への対応. 小児内科 Vol.57 (12): 1554-1557, 2025.12
3. 石井隆大. 小児摂食症 プライマリ診療の手引き. 2025.10. (エキスパートパネル協力者)
4. 石井隆大, 山下大輔 (分担執筆). 小児摂食障害診療ガイドライン：摂食障害の治療 (担当部分). 日本小児心身医学会 (編) 小児心身医学会ガイドライン集 (改訂第3版) —日常診療に活かす7つのガイドライン. 南江堂, 2025年10月

－講演・シンポジウム－

－シンポジウム

1. 山下大輔. 漢方が小児心身症の未来を救う?!. 第50回日本東洋医学会九州支部学術総会. 2025.11.30 (福岡)

－一般演題

1. 石井隆大, 山下哲矢, 吉塚梯子, 山下大輔, 後藤康平, 小池敬義, 原 宗嗣. 特徴的な巻き舌上の舌変形を認めた多発性関節拘縮と筋力低下を認めた10歳女児. 第67回日本小児神経学会学術集会. 2025.6.4 (鳥取)
2. 山下大輔, 山下哲矢, 松行圭吾, 阪田健祐, 後藤康平, 石井隆大, 小池敬義, 原 宗嗣, 田中聡子, 恵上英昭. 「フクロウ外来」受診患者のプロファイルと苓桂朮甘湯内服による治療効果の検討. 第67回日本小児神経学会学術集会. 2025.6.4 (鳥取)
3. 石井隆大, 水落建輝. 癇癇や苛立ちへの対応としての外在化的支援：AI活用の可能性. 第72回九州学校保健学会～こどもに健やかな睡眠を～. 2025.8.24 (福岡)
4. 石井隆大. 家族病理を探る－不登校と起立性調節障害の交差点にあるもの. 第16回日本子ども虐待医学会学術集会. 2025.8.23-24 (Up to Date レクチャー) (オンデマンド配信)

5. 石井隆大. 小児科臨床における“家族と共にある”支援－親の精神的困難と向き合う時－. 第43回日本小児心身医学会学術集会. 2025.9.20(公募企画)(東京)
6. 中澤綾華, 吉良晴子, 石井隆大. 競技をやめる選択が回避・制限性食物摂取症の回復を促した一例: 母子への心理支援の観点から. 第43回日本小児心身医学会学術集会. 2025.9.20(東京)
7. 山下大輔, 石井隆大, 水落建輝. 「登校支援外来」の患者プロフィール. 第43回日本小児心身医学会学術集会. 2025.9.20.(東京)

－研究会・学会地方会－

1. 石井隆大. 小児科医が見た不登校 ところをつなぎ未来をひらく“人間の力”. 第21回九州思春期研究会. 2025.2.16(福岡)
2. 石井隆大, 山下大輔, 水落建輝. “食べれば治る”ではない: 小児摂食障害の急性期治療の落とし穴. 第55回筑後地区輸液栄養 NST研究会. 2025.11.18(福岡)

－講演

1. 石井隆大. 不登校児童生徒に対する家庭や学校としての関わり方や支援者としてできること～不安や無気力タイプへの不登校のケースを中心に～. 三潁群保健会研修会. 2025.6.13(福岡)

－記念誌、新聞、テレビ、ラジオ－

1. 石井隆大. ICTを用いた小児保健. 小児科診療UP-to-DATE. ラジオ NIKKEI. 2025.6.10
2. 石井隆大. 共に歩む: 不登校児童支援におけるICT活用と多職種連携の展望. 小児保健研究 第84巻 第5号. 2025
3. 山下大輔. 「怠け」じゃない 病に理解を. 読売新聞. 2025.10.3
4. 山下大輔. 思春期の不調 広がる対策. 読売新聞. 2025.10.3
5. 石井隆大. 不登校児童に対するICTを活用した支援に関する調査結果について. 久留米大学プレスリリース. 2025.10.15

－研究費・受賞－

1. 石井隆大. 文部科学研究費 基盤研究(C)「精神疾患患者の子どもへの支援の必要性を可視化する: ツール開発と効果検証」5万円(分担)

高次脳疾患研究所

－論文－

1. Yuge K., Takahashi T., Kawahara Y., Sakai Y., Sato T., Kakuma T., Nishi A., Matsuishi T., Yamashita Y. Attenuated Orexinergic Signaling Underlies Sleep-Wake Problems in a Mecp2-null Mouse Model of Rett Syndrome Neurobiol Dis 214: 107035 (2025)
2. Kawahara Y, Ohnishi YN, Takahashi T, Kishikawa Y, Kuroiwa M, Yuge K, Kawahara H, Yamashita Y, Matsuishi T, Nishi A. Ghrelin restores D1 receptor-mediated dopamine neurotransmission and enhances attentive behavior in Mecp2 KO mice Eur J Pharmacol 1008: 178352 (2025)

—講演・シンポジウム—

—国際学会—

1. Yoshino M, Takahashi T, Morisaki, T. Effect of ammonia on intracellular energetic status. 6th International Symposium on Urea Cycle Disorders, September 1-2, 2025 (Kyoto).
2. Yoshino M, Takahashi T, Morisaki, T. Succinyl-CoA synthetase reaction (succinate-forming) is a reasonable target of anaplerotic therapy for hyperammonemia. International Congress of Inborn Errors of Metabolism 2025, September 2-6, 2025 (Kyoto)

—研究費・受賞—

1. 高橋知之. 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究C 「レット症候群モデルマウスの発達障害特性の解析と創薬標的探索モデルとしての応用」(研究代表者・継続) 117万円
2. 福田 篤. AMED委託研究開発 難治性疾患実用化研究事業 福田 篤班「偏ったX染色体不活化状態を再現したレット症候群iPSC脳オルガノイドモデルを用いたMECP2-v1 遺伝子治療法に関する研究開発」(研究開発分担者・新規) 100万円

関連病院業績

飯塚病院

ー講演・シンポジウムー

ー国内学会ー

1. 岡松由記. 飯塚病院における研修医教育～医師の働き方改革が始まる前と後～. 第49回日本外来小児科学会教育検討会. 2025.3.9 (福岡市／オンライン)
2. 嘉村拓朗. 腹部鈍的外傷と子ども虐待. 第16回日本子ども虐待医学会学術集会. 2025.08.23-2025.8.24 (福岡市／オンライン)

ー研究会・学会地方会ー

1. 本間一樹, 笹栗 誠, 荒木潤一郎, 岡松由記, 竜田恭介, 西澤夏將, 安田 学. 急性膿胸の診断後速やかに胸腔鏡下膿胸腔搔爬術を行った1例. 第528回日本小児科学会福岡地方会例会. 2025.3.8 (福岡市)
2. 荒木潤一郎. 飯塚病院小児科腎外来の『これまで』と『これから』. 第365回筑豊小児科医会勉強会. 2025.3.13 (飯塚市)
3. 田中祥一郎. 人生100年時代を生き抜く～子どもたちの健康と未来を支えるために～. 第365回筑豊小児科医会勉強会. 2025.3.13 (飯塚市)
4. 笹栗 誠, 齊木玲央, 大矢崇志, 近藤里香子, 神田 洋, 木下正啓, 岡松由記. 当院で在宅人工呼吸器管理している患者の加湿用精製水の使用状況についてのまとめ. 第9回 Young Investigator Meeting. 2025.5.24 (久留米市)
5. 吉田浩一. 先天梅毒を経験して. 第52回 筑豊周産期懇話会. 2025.5.28 (飯塚市)
6. 兵頭梨沙, 笹栗 誠, 嘉村拓朗, 岡松由記. 神経症状を伴う副鼻腔炎に対して早期の造影CT検査で硬膜外膿瘍の合併が診断できた11歳女児例. 第529回日本小児科学会福岡地方会例会. 2025.6.14 (福岡市)
7. 嘉村拓朗. 二次医療機関からみた小児気管支喘息. 第369回筑豊小児科医会勉強会. 2025.7.17 (飯塚市／オンライン)
8. 田中祥一郎. 小児科医が育む“子どもにやさしいまち”～医療を超えて地域を支える～. 八幡小児科医会講演会. 2025.10.09 (北九州市)

ーその他ー

1. 田中祥一郎. まちの保健室から見た子どもたちの健康課題. 子どもを地域で支える会・筑豊. 2025.1.21 (飯塚市)
2. 田中祥一郎. 地域で考える子どものトータルヘルスケア～小児科医からみた筑豊地区の子どもの現状～. 令和6年度筑豊地区市町村社会教育委員研修会. 2025.1.30 (嘉穂郡桂川町)
3. 田中祥一郎. ピンチをチャンスに変える公民共創の力～課題先進地域の取り組み～. 第20回 赤ちゃん成育ネットワーク 研修フォーラム. 2025.3.9 (東京都港区)
4. 田中祥一郎. 発達障がい理解と支援. 令和7年度第一回福岡県女性支援団体ネットワーク会員向け研修会. 2025.6.4 (春日市)
5. 田中祥一郎. アタッチメントの視点から見る養育環境と発達. 第4回筑豊地区要保護児童対策地域協議会自治体間ネットワーク協議会. 2025.6.23 (田川市)

6. 田中祥一郎. 子どもの成育環境と地域社会. 令和7年度第一回ファミサポ講習会. 2025.6.25 (飯塚市)
7. 田中祥一郎. 医師という職業で描く、自分らしい人生. 福岡工業大学附属城東高等学校 進路研修会. 2025.7.10 (福岡市)
8. 田中ゆかり. 低リン血症を機に診断に至ったFGF23関連低リン血症性くる病の親子例. 飯塚医師会学術講演会. 2025.7.30 (飯塚市／オンライン)
9. 大矢崇志. 小児等地域療育支援病院の現状と展望について. 令和7年度福岡県小児等在宅医療推進事業 小児在宅医療懇話会. 2025.8.23 (福岡市)
10. 田中祥一郎. 切れ目ない支援の構築に向けて. 令和7年度一般社団法人福岡県公認心理師会 全体研修会. 2025.10.13 (福岡市)
11. 嘉村拓朗. 舌下免疫療法を含むアレルギーの予防について. 大牟田市アレルギー教室. 2025.10.28 (大牟田市)
12. 田中祥一郎. 子どもの成育環境と地域社会. 令和7年度 第2回 ファミサポ会員登録講習会. 2025.11.18 (飯塚市／オンライン)
13. 田中祥一郎. 子どものアレルギーを正しく理解し、学校・園で支えるために. 令和7年度 嘉穂郡学校保健会研修会. 2025.11.25 (嘉穂郡桂川町)
14. 田中祥一郎. 地域にひらく“安心の場”－警固界限とクリニックから考える支援のかたち－. 障がい児支援に関わる多機関連携意見交換会. 2025.12.05 (飯塚市)
15. 大矢崇志. 安全基地の作り方～困っている子に沿うために～. 障がい児支援に関わる多機関連携意見交換会. 2025.12.05 (飯塚市)
16. 吉田浩一. 発熱4日目の紹介受診患者。黄疸があったのでお腹に当てたエコーで偶然気づかれた心筋収縮能の低下?! . 症例検討会. 2025.12.10 (飯塚市／オンライン)
17. 大矢崇志. 障がいを持つ子どもの親の気持ちを知ろう. 令和7年度 校内医療的ケア研修会. 2025.12.17 (嘉麻市)

ー学会・研究会演題ー

ー国内学会

1. 笹栗 誠, 岡松由記, 齊木玲央, 大矢崇志, 近藤里香子, 神田 洋. 当院で在宅人工呼吸器管理している患者の加湿用精製水の使用状況についてのまとめ. 第128回 日本小児科学会学術集会. 2025.4.18-2025.4.20 (名古屋市／オンライン)
2. 岡松由記. 小児膿胸に対して胸腔鏡下膿胸搔爬術を行った1例と行わなかった1例の経過の報告. 第57回日本小児呼吸器学会学術集会. 2025.11.22-2025.11.23 (福岡市)

ーその他メディア掲載ー

1. 田中祥一郎. 処方薬の譲渡 警固界限横行. 西日本新聞. 2025.10.04

北九州市立八幡病院

ー著書ー

1. 小野友輔. 正しく怖がれ、小児救急一人対応. 小児科診療 95-102 診断と治療社 2025 No.1

2. 小野友輔. 侵襲なく全身を診られる超音波検査で子ども達の声なき声を聞く小児臨床超音波の実際. INNER VISION canon clinical report – インナービジョン 2025年1月号

3. 小野友輔. 小児の身体診察×エコー超入門 監修、執筆

4. 小野友輔. 小児の身体診察×エコー超入門 1-313. 診断と治療社 2025年

—講演・シンポジウム—

—国内学会—

1. 小林 匡. 第128回日本小児科学会学術集会教育セミナー. 2025.4.18 (名古屋市)

2. 小野友輔. 第98回日本超音波医学会 教育セッション. 2025.5.31 (京都市)

3. 小野友輔. 第61回日本小児放射線学会. 2025.6.28 (東京都)

4. 小野友輔. 第10回小児超音波研究会学術集会 シンポジウム. 2025.11.2 (さいたま市)

5. 小野友輔. 第17回日本ポイントオブケア超音波学会学術集会. 2025.7.26 (東京都)

6. 小野友輔. 第16回日本子ども虐待医学会学術集会 教育講演5. 2025.8.24 (福岡市)

—研究会・学会地方会—

1. 小野友輔. 第428回福岡東部地区小児科医会, 第221回宗像地区小児科医会合同開催 特別講演. 2025.5.15 (宗像市)

2. 小野友輔. 第18回 広島小児超音波研究会. 2025.6.17 (広島市)

—その他—

1. 富田一郎. FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症の家族症例について. 2025.2.26 (北九州市)

2. 小野友輔. 第17回 超音波セミナー in 新潟. 2025.3.23 (新潟市)

3. 小野友輔. 第二回知っておきたい小児疾患カンファランス. 2025.5.22 (仙台市)

4. 小野友輔. 第20回小児医療ワークショップ in 北九州. 2025.10.12 (北九州市)

5. 小野友輔. 第二回知っておきたい小児疾患カンファランス. 2025.5.22 (仙台市)

—学会・研究会—

1. 小林 匡. 第128回日本小児科学会学術集会. 2025.4.19 (名古屋市)

2. 莫根良太, 中野慎也. 日本小児腎臓病学会. 2025.5.23 (名古屋市)

3. 兵頭美咲, 本田祐子, 松石登志哉, 稲垣二郎, 安井昌博. 日本小児科学会福岡地方会例会. 2025.12.13 (福岡市)

社会保険田川病院

—論文—

1. 吉川秀昭, 黒松 肇, 蜂須賀 徹, 藤井 毅, 荒木研士郎, 酒井さやか. 若年妊婦をリスク因子に持つハイリスク妊産婦の当院における実態調査. 福岡産科婦人科学会雑誌 49 (1): 59 2025

—講演・シンポジウム—

1. 酒井さやか. 児童虐待への気づきと対応. 2025.10.28 大牟田市立病院 CPT 講演会

—学会・研究会演題—

1. 酒井さやか. 社会的ハイリスク妊婦の取り扱い. 2025.5.28 筑豊周産期懇話会(飯塚市)

—受賞—

1. 酒井さやか. 福岡県警より感謝状(児童虐待の捜査協力に関して). 2025.2.14(社会保険田川病院)

—新聞—

1. 酒井さやか. 子どもを心の不調や虐待から守るために. 2025.11.23 朝日新聞

聖マリア病院(小児科)

—論文—

1. Nagai K, Kawano G, Sakaguchi H, Yokochi T, Eshima N, Matsuishi T. Post-encephalitic epilepsy in patients with acute encephalopathy 10.3389/fneur.2025.1568566. eCollection 2025.
2. Sakuma H, Thomas T, Debinski C, Eyre M, Han VX, Jones HF, Kawano G, Lee VW, Malone S, Matsuishi T, Mohammad SS, Mori T, Nishida H, Nosadini M, Takanashi JI, Mizuguchi M, Lim M, Dale RC. International consensus definitions for infection-triggered encephalopathy syndromes. Dev Med Child Neurol. 2025 Feb;67(2):195-207. doi: 10.1111/dmcn.16067. Epub 2024 Aug 14.
3. Kawahara Y, Ohnishi YN, Takahashi T, Kishikawa Y, Kuroiwa M, Yuge K, Kawahara H, Yamashita Y, Matsuishi T, Nishi A. Ghrelin restores D1 receptor-mediated dopamine neurotransmission and enhances attentive behaviour in *Mecp2* KO mice. Eur J Pharmacol, 1008, 2025:178352, <https://doi.org/10.1016/j.ejphar.2025.178352>
4. Yuge K, Takahashi T, Kawahara Y, Sakai S, Sato T, Kakuma T, Nishi A, Matsuishi T, Yamashita Y. Attenuated orexinergic signaling underlies sleep-wake problems in a *Mecp2*-null mouse model of Rett syndrome. Neurobiol. Dis.214, 2025:10703
5. 佐藤美晴, 吉田賢弘, 甲斐蘭七, 多々良一彰, 松下美由紀, 日吉祐介, 河野 剛, 秋田幸大, 田中征治. 初診時に腎機能障害と播種性血管内凝固を認め, 抗菌薬投与のみで治療可能であった高度膀胱尿管逆流を伴う多発腎膿瘍の1例. 日本小児腎不全学会雑誌. 2025; 45: 151-4.
6. Tokumoto, Masahiro Nishiyama, Hiroshi Yamaguchi, Kentaro Sano, Mitsuo Motobayashi, Mitsuru Kashiwagi, Yuka Hattori, Azusa Maruyama, Daisaku Toyoshima, Taku Nakagawa, Go Kawano, Hiroaki Nagase. Epidemiology and treatment trends for acute encephalopathy under the impact of SARS-CoV-2 pandemic based on a prospective multicenter consecutive case registry. J Neurol Sci. 2025 Feb 15;469:123377. doi: 10.1016/j.jns.2024.123377. Epub 2025 Jan 3.

—著書—

1. ナースの小児科学 改訂7版, 中外医学社, 吉田賢弘, 濱崎祐子. 輸液療法. 2025: 139-141. 脱水. 2025: 173-5. 浮腫. 2025: 200-1.
遺伝性腎炎, 体位性蛋白尿, 先天性尿路疾患, 尿路感染症, 腎不全(急性、慢性), 精巣・陰囊の病気. 2025: 529-535.

—講演・シンポジウム—

1. 松石豊次郎, 河野 剛, 弓削康太郎. FOXG1 症候群について —臨床研究より— レット症候群とその周辺疾患シンポジウム. 2025.3.22(大阪市)

—学会—

1. 末継智士, 河野 剛, 佐藤美晴, 山木勇人, 高木健太郎, 越智悠一, 坂口廣高, 前田靖人, 多々良一彰, 松下美由紀, 吉田賢弘, 横地賢興, 足立 基, 秋田幸大, 松石豊次郎. 熱誠けいれん重積後、レントゲンで右肺野全体の透過性低下を認めた二相性脳症の一例. 第528回日本小児科学会福岡地方会例会. 2025.3.8 (福岡)
2. 白川咲歩, 宮城裕典. 急激に運動チック、悪言、鼻すすりなどの音声チックを認めた8歳男児. 第296回 PRIMARY CARE CONFERENCE. 2025.4.24 (久留米)
3. 三田早希子, 中村優也. マイコプラズマ感染に伴い川崎病、冠動脈拡張を認めた3歳男児. 第296回 PRIMARY CARE CONFERENCE. 2025.4.24 (久留米)
4. 江藤美咲, 越智悠一. 両下肢の進行性の筋力低下を認め Guillain-Barre 症候群と診断した2歳男児. 第296回 PRIMARY CARE CONFERENCE. 2025.4.24 (久留米)
5. 藤堂瑞葵, 多々良一彰. 初期に脳梁膨大部病変を認めたが最終的にサイトカイン型脳症の経過をとった13歳男児. 第296回 PRIMARY CARE CONFERENCE. 2025.4.24 (久留米)
6. 前田靖人, 津田恵太郎, 河野 剛, 秋田幸大, 家村素史, 須田憲治, 水落建輝. 小児における劇症型心筋炎と急性胃腸炎との初診時ルーチン検査所見の比較. 第128回日本小児科学会学術集会. 2025.4.18-20 (愛知)
7. 吉田賢弘, 日吉祐介, 佐藤美晴, 甲斐蘭七, 越智悠一, 前田靖人, 坂口廣高, 多々良一彰, 松下美由紀, 横地賢興, 高橋幸利, 河野 剛, 秋田幸大, 田中征治. 急性巣状細菌性腎炎罹患により発症した抗グルタミン酸受容体抗体陽性の自己免疫性の脳炎の1例. 第60回日本小児腎臓病学会学術集会. 2025.5.22-24 (名古屋)
8. 河野 剛, 佐藤美晴, 長井孝太, 山木勇人, 高橋幸利, 松石豊次郎. 当院での抗NMDA受容体脳炎18例での治療、予後に関する検討. 第67回日本小児神経学会学術集会. 2025.6.4-7 (鳥取)
9. 山木勇人, 佐藤美晴, 磯岡藍子, 秋田幸大, 河野 剛, 高橋知之, 江島伸興, 松石豊次郎. レット症候群の精神症状、ジストニアに対してタンドスピロンを使用した症例の検討. 第67回日本小児神経学会学術集会. 2025.6.4-7 (鳥取)
10. 佐藤美晴, 山木勇人, 磯岡藍子, 秋田幸大, 河野 剛, 江島伸興, 松石豊次郎. Rett症候群におけるRSBQの検討. 第67回日本小児神経学会学術集会. 2025.6.4-7 (鳥取)
11. 長井孝太, 河野 剛, 佐藤美晴, 山木勇人, 松石豊次郎. 二相性急性脳症と脳症後てんかん. 第67回日本小児神経学会学術集会. 2025.6.4-7 (鳥取)
12. 末継智士, 河野 剛, 坂口廣高, 前田靖人, 多々良一彰, 松石豊次郎. 二相性急性脳症におけるearly seizure後の呼吸障害の特徴. 第38回日本小児救急医学会学術集会. 2025.6.4-6 (東京)
13. 多々良一彰, 河野 剛, 末継智士, 松石豊次郎, 高橋幸利. 非典型的な経過をたどった自己免疫性脳炎の2例. 第38回日本小児救急医学会学術集会. 2025.6.4-6 (東京)
14. 清水宏樹, 宮城裕典. 発作時に一過性の脳波異常を認めた周期性嘔吐症8歳女児. 第297回 PRIMARY CARE CONFERENCE. 2025.8.28 (久留米)
15. 井出 芳, 矢野文子. IgA血管炎に対するステロイド加療中に細菌性股関節炎・骨髓炎を認めた8歳女児. 第297回 PRIMARY CARE CONFERENCE. 2025.8.28 (久留米)
16. 大野美織, 中村優也. 重症喘息に対して呼吸器管理を行った早産双胎出生児7か月女児2例. 第297回 PRIMARY CARE CONFERENCE. 2025.8.28 (久留米)

17. 宮城湧平, 藤堂瑞葵. 上気道炎(コロナ、インフルエンザウイルス抗原陽性)罹患後、くも膜下出血を認めた10歳男児. 第297回PRIMARY CARE CONFERENCE. 2025.8.28(久留米)
18. 中村優也, 河野 剛, 多々良一彰, 松下美由紀, 坂口廣高, 前田靖人, 越智悠一, 宮城裕典, 矢野文子, 江藤美咲, 藤堂瑞葵. 急速に気管支喘息から呼吸不全に至った6か月の双胎児の2例. 第530回日本小児科学会福岡地方会例会. 2025.9.13(福岡)
19. 河野 剛. Remote ischemic postconditioning as an adjunct therapy to therapeutic hypothermia in patients with acute encephalopathy with biphasic seizures and late reduced diffusion. 第17回アジア・大洋州小児神経学会 Asian and Oceanian Congress of Child Neurology. 2025.9.17-20(インド)
20. 長井孝太. Post-Encephalitic Epilepsy in Patients with Acute Encephalopathy with Biphasic Seizures and Late Reduced Diffusion. 第17回アジア・大洋州小児神経学会 Asian and Oceanian Congress of Child Neurology. 2025.9.17-20(インド)
21. 長濱果歩, 河野 剛, 江藤美咲, 矢野文子, 宮城裕典, 越智悠一, 坂口高廣, 前田靖人, 多々良一彰, 松下美由紀, 吉田賢弘, 横地賢興, 足立 基, 秋田幸大, 松石豊次郎. 頭痛・嘔吐を認め、頭部打撲後の錯乱型片頭痛と診断した12歳男児例. 第531回日本小児科学会福岡地方会例会. 2025.12.13(福岡)
22. 小西翔太, 佐藤美晴. 発熱・頸部腫脹あり化膿性甲状腺炎を認めた4歳女児. 第298回PRIMARY CARE CONFERENCE. 2025.12.18(久留米)
23. 八木 啓, 江藤美咲. 頭痛・嘔吐を認め、錯乱状態となり錯乱型片頭痛と診断した12歳男児例. 第298回PRIMARY CARE CONFERENCE. 2025.12.18(久留米)
24. 浦元華子. 川崎病に糸球体腎炎を合併した14歳男児. 第298回PRIMARY CARE CONFERENCE. 2025.12.18(久留米)
25. 梶原 悠. 発熱2日目に強直発作、意識障害と腎膿瘍、薬剤性過敏症症候群を認めた7歳男児. 第298回PRIMARY CARE CONFERENCE. 2025.12.18(久留米)

ー研究費・受賞ー

1. 松石豊次郎. レット症候群とその周辺疾患の臨床調査研究. 令和7年度厚生労働省難治性疾患政策研究事業. (代表研究者 伊藤雅之) 50万円(分担)
2. 松石豊次郎. 偏ったX染色体不活化状態を再現したレット症候群iPSC脳オルガノイドモデルを用いたMECP2-v1遺伝子治療法に関する研究開発. 日本医療研究開発機構難治性疾患実用化研究事業令和7年度. (代表研究者 福田篤) 100万円(分担)
3. 松石豊次郎. 二相性急性脳症とRemote ischemic Postconditioningの効果. 令和7年度文部科学省基盤研究(C). (代表研究者 河野剛) 20万円(分担)
4. 河野 剛. 令和7年度厚生労働科学研究費「稀少てんかんの診療指針と包括医療の研究」(責任者: 今井克美) 50万円(分担)
5. 河野 剛. 二相性急性脳症とRemote ischemic Postconditioningの効果. 令和7年度文部科学省基盤研究(C). 80万円(代表)

聖マリア病院（小児総合研究センター／レット症候群研究センター）

—論文—

1. Nagai K, Kawano G, Sakaguchi H, Yokochi T, Eshima N, Matsuishi T. Post-encephalitic epilepsy in patients with acute encephalopathy 10.3389/fneur.2025.1568566. eCollection 2025.
2. Sakuma H, Thomas T, Debinski C, Eyre M, Han VX, Jones HF, Kawano G, Lee VW, Malone S, Matsuishi T, Mohammad SS, Mori T, Nishida H, Nosadini M, Takanashi JI, Mizuguchi M, Lim M, Dale RC. International consensus definitions for infection-triggered encephalopathy syndromes. Dev Med Child Neurol. 2025 Feb;67(2):195-207. doi: 10.1111/dmcn.16067. Epub 2024 Aug 14.
3. Kawahara Y, Ohnishi YN, Takahashi T, Kishikawa Y, Kuroiwa M, Yuge K, Kawahara H, Yamashita Y, Matsuishi T, Nishi A. Ghrelin restores D1 receptor-mediated dopamine neurotransmission and enhances attentive behaviour in *Mecp2* KO mice. Eur J Pharmacol, 1008, 2025:178352, <https://doi.org/10.1016/j.ejphar.2025.178352>.
4. Yuge K, Takahashi T, Kawahara Y, Sakai S, Sato T, Kakuma T, Nishi A, Matsuishi T, Yamashita Y. Attenuated orexinergic signaling underlies sleep-wake problems in a *Mecp2*-null mouse model of Rett syndrome. Neurobiol. Dis.214, 2025: 107035.

—講演・シンポジウム—

1. 松石豊次郎, 河野 剛, 弓削康太郎. FOXP1 症候群について – 臨床研究より – レット症候群とその周辺疾患シンポジウム in 大阪. 2025.3.22 (新大阪ブリックビル3階 A+B+C 会議室)

—学会—

1. 河野 剛, 佐藤美晴, 長井孝太, 山木勇人, 高橋幸利, 松石豊次郎. 当院での抗NMDA受容体脳炎18例での治療、予後に関する検討. 第67回日本小児神経学会学術集会. 2025.6.4-7 (鳥取)
2. 山木勇人, 佐藤美晴, 磯岡藍子, 秋田幸大, 河野 剛, 高橋知之, 江島伸興, 松石豊次郎. レット症候群の精神症状、ジストニアに対してタンドスピロンを使用した症例の検討. 第67回日本小児神経学会学術集会. 2025.6.4-7 (鳥取)
3. 佐藤美晴, 山木勇人, 磯岡藍子, 秋田幸大, 河野 剛, 江島伸興, 松石豊次郎. Rett症候群におけるRSBQの検討. 第67回日本小児神経学会学術集会. 2025.6.4-7 (鳥取)
4. 長井孝太, 河野 剛, 佐藤美晴, 山木勇人, 松石豊次郎. 二相性急性脳症と脳症後てんかん. 第67回日本小児神経学会学術集会. 2025.6.4-7 (鳥取)
5. 末継智士, 河野 剛, 坂口廣高, 前田靖人, 多々良一彰, 松石豊次郎. 二相性急性脳症におけるearly seizure後の呼吸障害の特徴. 第38回日本小児救急医学会学術集会. 2025.6.4-6 (東京)
6. 多々良一彰, 河野 剛, 末継智士, 松石豊次郎, 高橋幸利. 非典型的な経過をたどった自己免疫性脳炎の2例. 第38回日本小児救急医学会学術集会. 2025.6.4-6 (東京)

—研究費・受賞—

1. 松石豊次郎 (分担研究者). レット症候群とその周辺疾患の臨床調査研究. 令和7年度厚生労働省難治性疾患政策研究事業. (研究代表者 伊藤雅之) 50万円 (分担)
2. 松石豊次郎 (分担研究者). 偏ったX染色体不活化状態を再現したレット症候群iPSC脳オルガノイドモデルを用いたMECP2-v1遺伝子治療法に関する研究開発. 令和7年度日本医療研究開発機構難治性疾患実用化研究事業. (研究代表者 福田 篤) 100万円 (分担)

3. 松石豊次郎（分担研究者）. 二相性急性脳症と Remote ischemic Postconditioning の効果. 令和7年度文部科学省基盤研究（C）.（研究代表者 河野 剛）20万円（分担）

聖マリア病院（新生児科）

—論文—

1. Sakota Y, Matsumoto T, Yamaguchi M, Tajiri M, Yoshida K, Maeno Y. Analysis of the effectiveness of early intervention on carbapenem antibiotic use. Cureus 17(6): e86390. DOI 10.7759/cureus.86390
2. 甲斐蘭七, 木下正啓, 海野光昭, 原田英明, 前野泰樹. 産科クリニックに対する新生児仮死への遠隔ビデオ通話を用いたブリーフィングと蘇生支援. 日本周産期・新生児医学会雑誌. 2025; 61: 419-423

—講演—

1. 前野泰樹. ファントムで「教える」胎児心エコー. 第31回日本胎児心臓病学会学術集会. 2025.2.22-23（福山市）
2. 前野泰樹. 教育講演：胎児循環から新生児循環管理を再考する. 第20回日本周産期循環管理研究会. 2025.5.24-25（福岡）
3. 前野泰樹. ワークショップ 胎児心不全の定義を考える 3. 胎児不整脈から考える胎児心不全. 日本超音波医学会第98回学術集会. 2025.5.30-6.1（京都）
4. Maeno Y. Diagnosis and Classification of Fetal Tachyarrhythmia. The 20th Congress of World Federation for Ultrasound in Medicine and Biology. 2025.5.29-6.1, Kyoto
5. 前野泰樹. 周産期搬送と telemedicine への発展. 第3回大阪府医師会 周産期医療研修会. 2025.10.5（大阪）
6. 前野泰樹. 胎児不整脈の評価方法. 第10回レベルII胎児心エコー講習会. 2025.12.14（web東京）

—学会発表—

1. 甲斐蘭七, 木下正啓, 海野光昭, 原田英明, 前野泰樹. 産科クリニックで無痛分娩中の胎児機能不全に対し出生前からのビデオ通話で円滑な蘇生介入が行えた一例. 日本小児科学会地方会例会. 2025.3.8（福岡）
2. 甲斐蘭七, 前田靖人, 津田恵太郎, 鍵山慶之, 家村素史, 須田憲治, 前野泰樹. 急速な経過で心原性ショックを来した房室帰帰頻拍の新生児例. 第61回日本小児循環器学会総会・学術集会. 2025.7.10-12（三重）
3. 三好剛一, 金 基成, 島田衣里子, 漢 伸彦, 加藤愛章, 前野泰樹. 胎児心室頻拍の全国調査. 第61回日本小児循環器学会総会・学術集会. 2025.7.10-12（三重）
4. 寺町陽三, 前野泰樹, 大津生利衣, 山川祐輝, 清松光貴, 鍵山慶之, 高瀬隆太, 須田憲治. 当院における過去10年間の胎児徐脈性不整脈の検討. 第61回日本小児循環器学会総会・学術集会. 2025.7.10-12（三重）
5. 永田 弾, 西畠 信, 前野泰樹, 漢 伸彦, 川村順平, 寺町陽三, 杉谷雄一郎, 原田雅子, 土井大人, 原 卓也, 岡田清吾. 九州地区における重症先天性心疾患の胎児診断率. 第61回日本小児循環器学会総会・学術集会. 2025.7.10-12（三重）
6. 海野光昭. 院外で出生した新生児仮死における出生から搬送依頼までの時間の経年的変化. 第61回日本周産期・新生児医学会学術集会. 2025.7.13-15（大阪）
7. 佐藤美晴, 浦本華子, 梶原 悠, 中村美和子, 木下正啓, 海野光昭, 原田英明, 前野泰樹. 帽状腱膜下血腫重症例の臨床的特徴. 第530回日本小児科学会福岡地方会例会. 2025.9.13（福岡）

8. 梶原 悠, 海野光昭, 原田英明, 前野泰樹. 当院における過去 10 年間のダウン症候群の比較検討と染色体検査の実際. 日本新生児成育医学会学術集会. 2025.11.13-15 (横浜)
9. 前野泰樹, 原田英明, 海野光昭, 古賀由紀, 井上悠香里, 村上歌奈子. 遠隔動画通信を利用した先進的な新生児搬送の取り組み. 第 75 回聖マリア医学会学術集会. 2025.12.6 (久留米)
10. 浦元華子, 海野光昭, 佐藤美晴, 梶原 悠, 中村美和子, 原田英明, 堤 千代, 井出悠一郎, 前野泰樹. NICU 入院時の 25 水酸化ビタミン D 血中濃度の検討. 第 531 回日本小児科学会福岡地方会. 2025.12.13 (福岡)

同門業績

橋本武夫（昭和 42 年入局 鳥栖市）

— 著書 —

1. 橋本武夫. 「産前（妊婦）・産後、そして乳児期の母子対応」. Complementary Therapist 養成テキスト（第 2 版）. 認定 NPO 法人. 日本セラピューティック・ケア協会出版. 2025. P96～102.

— 特別・教育・シンポ（学会、研究会） —

1. 橋本武夫. Clinical pearl「NICU におけるタッチケアの有用性」. 第 82 回九州新生児研究会. 2025,6,7（北九州市）
2. 橋本武夫. シンポ「在宅ケアから児童発達支援センターでの挑戦とその成果」. 第 46 回重症心身障害福祉協会. 西日本施設協議会. 2025,11～12（熊本市）
3. 橋本武夫. 特別講演「胎児期からの子育て～神のなせる技～」. カトリック福岡司教区幼児教育連盟. 第 33 回教職員研究大会. 2025,8,21～22（南関市）
4. 橋本武夫. Clinical pearl「分娩にまつわる損傷の興味ある症例から」. 第 83 回九州新生児研究会. 2025,10,18（長崎市）

— 学会発表 —

1. 橋本武夫. 「新生児から療育への多職種ケア実践の流れと興味ある体験から」第 12 回日本小児診療多職種学会. 2025,3,7～8（広島市）

— 講演会 —

1. 橋本武夫. 「母乳育児支援、最近の課題と問題対応」. 一般社団法人ママズケア母乳育児講演会. 2025,1,19（東京都）
2. 橋本武夫. 「こどもの発達における児童発達支援センターの役割」. 筑紫女学園大学人間科学部人間科学科特別講義. 2025,1,31（鳥栖市）
3. 橋本武夫. 「子育てとタッチケア」. 筑紫保育園育児講演会. 2026,1,25（筑紫野市）
4. 橋本武夫. 「“おっぱいがいい”！最近の話題と誤解を正す」. 一般社団法人ママズケア. 乳房ケア技術セミナー. 2025,2,23（福岡市）
5. 橋本武夫. 「タッチケアとは？」. 鳥栖市カトリック幼稚園育児講演会. 2025,3,25（鳥栖市）
6. 橋本武夫. 「新生児医療から療育への流れ」. 聖マリア学院大学助産科特別講義. 2025,5,8（久留米市）
7. 橋本武夫. 「親子の共育ちとタッチケア」. 医療福祉専門学校緑生館看護学科. 2025,5,15（鳥栖市）
8. 橋本武夫. 「Loving HUG～医療における実践と挑戦～」. 日本タッチケア協会第 50 回指導者認定講習会. 2025,5,31～6,1（東京都）
9. 橋本武夫. 「子育てよろず相談」. 一般社団法人ママズケア母乳育児支援セミナー. 2025,6,8（西宮市）
10. 橋本武夫. 「こどもの育ちと子育ての中で、今、大切にしたいもの」. 一般社団法人ママズケア育児講演会. 2025,6,9（名古屋市）
11. 橋本武夫. 「あらためて子育ての原点を～愛着とキャッチボールの重要性」. 令和 2 年度佐賀県療育支援センター研修会. 2025,6,17（佐賀市）

12. 橋本武夫. 「母乳育児支援～最近の話題と基本的な支援～」. 豊田助産院母乳育児支援セミナー. 2025.6.25 (小郡市)
13. 橋本武夫. 「若楠児童発達支援センター、開設の経緯とその成果」. 社会福祉法人若楠児童発達支援センター開設10周年記念講演会. 2025.7.5 (鳥栖市)
14. 橋本武夫. 「今、保育士に伝えたいこと」. 社会福祉法人五豊会創立50周年研修会. 2025.7.6 (大野城市)
15. 橋本武夫. 「こども真ん中作戦?～これからの保育を求めて～」. モンテッソーリ教師養成講座卒業生研修会. 2025.8.20～21 (広島市)
16. 橋本武夫. 「子育ての原点と気になる子への対応」. 令和7年モンテッソーリ教師養成コース. 2025.8.24～26 (広島市)
17. 橋本武夫. 「今の保育政策について～こども真ん中作戦?～」. 令和7年モンテッソーリ教師養成コース. 2025.8.24～26 (広島市)
18. 橋本武夫. 「タッチケアの概念と実践」. 筑紫保育園育児講演会. 2025.8.30 (筑紫野市)
19. 橋本武夫. 「タッチケアと労・老多利」. 久留米ロータリークラブ第3479例会. 2025.10.31 (久留米市)
20. 橋本武夫. 「最近の育児の“変”から学ぶ」. 純真学園大学看護学科特別講義. 2025.12.10 (福岡市)

—その他—

1. 橋本武夫. 巻頭言「地域の子育て体制構築のための児童発達支援センターでの挑戦～“発達障害もどき”への注目を!～」. 赤ちゃん成育ネットワーク会報. 2025.3.27号p3～4.
2. 橋本武夫. 「“死生学”から学んだこと～それぞれのご家族の物語に感謝～」. 星の会誌, 発刊50回記念誌. 2025.4. P29～31.

松浦伸郎 (昭和54年入局 姫路市)

—学会発表—

1. 橋本裕美, 松浦伸郎, 島田 康. WS いなか小児科医の望む「学び」について考えよう. 第34回日本外来小児科学会. 2025.8.30 (高松)
2. 坂東琢磨, 河合直樹, 池松秀之, 前田哲也, 李 雲柱, 松浦伸郎, 田中 治, 川島 崇, 山本晴章, 佐藤家隆, 洞庭賢一. COVID-19とインフルエンザの急性期症状と症状持続期間の比較検討～日本臨床内科医会2023-24研究より. 日本臨床内科医会. 2025.5.10. 日本感染症学会 (横浜)

—論文—

1. Comparison of adverse reactions to COVID-19 XBB.1.5 and influenza vaccination in the 2023-24. Japanese influenza season. Naoki Kawai^a, Hideyuki Ikematsu^a, Takuma Bando^a, Woon Joo Lee^a, Shinro Matsuura^a, Maeda Tetsunari^a, Mariko Echizen^b, Takashi Kawashima^a. Volume 31, Issue 8, August 2025, 102728. Journal of Infection and Chemotherapy
2. Duration of fever and other symptoms among COVID-19 outpatients administered ensitrelvir during the 2023 Japanese XBB epidemic period. Naoki Kawai, Takuma Bando, Takeyuki Goto, Shinro Matsuura, Shin Nagao, Osame Tanaka, Takashi Kawashima, Young Chong, Hideyuki Ikematsu. Volume 31, Issue 8, August 2025, 102852 P3-7. Journal of Infection and Chemotherapy

3. Influenza vaccine effectiveness over 17 seasons in a large Japanese cohort: Analyses by age, virus type, underlying diseases and seasons before the COVID-19 pandemic. Naoki Kawai, Hideyuki Ikematsu, Takuma Bando, Takashi Kawashima, Shinro Matsuura, Tetsunari Maeda, Woon Joo Lee, Shin Nagao, Midori Yoshimura, Kazuo Mori, Osame Tanaka, Ken-ichi Doniwa, Ietaka Satoh, Seizaburo Kashiwagi. Journal of Infection and Public Health 18 (2025) 102934

藤澤卓爾 (昭和 57 年入局 高松市)

—論文—

1. Tani R, Matsunaga K, Inoue T, Nishioka K, Irie K, Kondo S, Iwase T, Fu HY, Ito S, Sasaki T, Yoshida S, Yokota I, Hoshikawa Y, Yokoyama K, Fujisawa T, Tada H, Takamura M, Kusaka T, Minamino T. Utility of discrepancies between Friedewald and Martin equations in predicting pathogenic variants of familial hypercholesterolemia in children. Circ J. 2025 May 11. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0928. Epub 2025 May 11.

—論文— (2024 年、2022 年の記載漏れ)

2. Fu HY, Matsunaga K, Inoue T, Tani R, Funatsuki K, Iwase T, Kondo S, Nishioka K, Ito S, Sasaki T, Yokota I, Hoshikawa Y, Yokoyama K, Fujisawa T, Kawashiri MA, Tada H, Takamura M, Kusaka T, Minamino T. Improved efficiency of the clinical diagnostic criteria for familial hypercholesterolemia in Children: A Comparison of the Japan atherosclerosis society guidelines of 2017 and 2022. J Atheroscler Thromb. 2024 Jul 1;31(7):1048-1057. doi: 10.5551/jat.64513. Epub 2024 Feb 2.
3. Matsunaga K, Mizobuchi A, Fu HY, Ishikawa S, Tada H, Kawashiri MA, Yokota I, Sasaki T, Ito S, Kunikata J, Iwase T, Hirao T, Yokoyama K, Hoshikawa Y, Fujisawa T, Dobashi K, Kusaka T, Minamino T. Universal screening for familial hypercholesterolemia in children in Kagawa, Japan. J Atheroscler Thromb. 2022 Jun 1;29(6):839-849. doi: 10.5551/jat.62780.

山下裕史朗 (昭和 58 年入局 久留米市)

—論文—

1. Yoshizuka T, Ozono S, Ishii R, Obara H, Murotani K, Nagamitsu S, Yamashita Y, Mizuochi T. Psychological distress among Japanese university students after parental bereavement. KurumeMed J 2025 Nov 13;71(3.4):127-137. doi:10.2739/kurumemedj.MS7134011. Epub 2025 Jul 4.
2. Yuge K, Takahashi T, Kawahara Y, Sakai Y, Sato T, Kakuma T, Nishi A, Matsuishi T, Yamashita Y. Attenuated orexinergic signaling underlies sleep-wake problems in a *Mecp2*-null mouse model of Rett syndrome. Neurobiol Dis. 2025 Oct 1;214:107035. doi: 10.1016/j.nbd.2025.107035. Epub 2025 Jul 18.
3. Kawahara Y, Ohnishi YN, Takahashi T, Kishikawa Y, Kuroiwa M, Yuge K, Kawahara H, Yamashita Y, Matsuishi T, Nishi. Ghrelin restores D1 receptor-mediated dopamine neurotransmission and enhances attentive behaviour in *Mecp2* KO mice. Eur J Pharmacol. 2025 Dec 5;1008:178352. doi: 10.1016/j.ejphar.2025.178352. Epub 2025 Nov 7. PMID: 41207357
4. 井上貴仁, 山下裕史朗. 小児慢性特定疾病、指定難病についてもっと知ろう！ 脳と発達. 2025 ; 57:131-4
5. 原 宗嗣, 山下裕史朗, 弓削康太郎, 星野恭子, 室谷健太, 福永道郎. 神経発達症を有する幼児、小児及び青年期の睡眠障害患者を対象としてメラトニンの有効生及び安全性の検討 (Melmoe Study) 脳と発達. 2025.12.5 受理

—著書—

1. 山下裕史朗 自閉スペクトラム症 (ASD). 根津敦夫, 横山美佐子. 編 Crosslink basic リハビリテーション

ー講演・シンポジウムー

ー国内学会

ーシンポジウム

1. 山下裕史朗. ADHD特性のある人の学び方: くるめSTPから学ぶ 日本ADHD学会 シンポジウム. 2025. 3.1. (東京)
2. 山下裕史朗. ADHD診療上の課題へのアプローチ: ADHDの心理社会的治療~教育・福祉との連携を中心に~ 共催シンポジウム2. 2025.6.6 (米子)
3. 山下裕史朗. 自立に向けた支援について考えるー医療・教育・福祉ーの側面から. 一般財団法人特別支援教育士資格認定協会S.E.N.Sの会福岡支部会夏季研修会シンポジウム. 2025.7.27 (太宰府)

ー教育講演・特別講演

1. 山下裕史朗. 就学前から就学に向けた連携~療育機関の立場から~ 大牟田医師会学校保健学術集会. 2025.3.19. (大牟田)
2. 山下裕史朗. 養育者レジリエンス 教育講演Ⅲ 日本吃音・流暢性障害学会第13回大会. 2025.8.24 (福岡)
3. 山下裕史朗. こどもの発達を支えるために. 令和7年度壱岐病院市民公開講座. 2025.11.30 (壱岐)
4. 山下裕史朗. 発達グレイゾーンの子どもの問題点と支援. 令和7年度(第71回)福岡県小児保健研究会・母子保健関係者研修会. 2025.12.6 (久留米)

ーセミナー

1. 山下裕史朗. 発達評価/知的障害・発達障害. 令和7年度九州地区公益社団法人日本重症心身障害福祉協会認定重症心身障害者看護師研修会. 2025.12.13 (久留米)

ー一般演題

1. 山下裕史朗. 1週間くるめサマー・トリートメント・プログラムの加点・減点に影響する要因の検討. 第67回日本小児神経学会学術集会. 2025.6.6 (米子)
2. 原 宗嗣, 山下裕史朗, 弓削康太郎, 星野恭子, 福永道郎. 神経発達症を有する幼児、小児及び青年期の睡眠障害患者を対象にしたメラトニンの有効生及び安全性の検討 (Melmoe Study). 第67回日本小児神経学会学術集会. 2025.6.7 (米子)
3. 恵 明子, 安村 明, 山下裕史朗. くるめSTPが前頭前野の活動および筆記動態に及ぼす影響. 第67回日本小児神経学会学術集会. 2025.6.7 (米子)

ーその他ー

1. 山下裕史朗. 神経発達症(障害)との付き合い方 高木病院院内研修会. 2025.3.3. (大川)
2. くるめSTP保護者説明会. 2025.7.5. (久留米)

ー記念誌、新聞、テレビ、ラジオー

1. 山下裕史朗. 慢性の病気や障害のある子どものきょうだい児への支援. ハッピーママくらぶ No.89
2. 山下裕史朗. 自立に向けた支援について考える. ハッピーママくらぶ No.90
3. 山下裕史朗, 小路純央. 子どもタイムズ「書きトレ!」始めます. 取材. 2025.3.10. (柳川)

4. 山下裕史朗. 子どもタイムズ「書きトレ！」始めます. 西日本新聞朝刊. 2025.4.4-12.26 毎金曜日連載
5. 山下裕史朗. きょうだいサポートグループ活動について NHK より電話取材
6. 畠中一郎, 山下裕史朗. 不屈の夏上映にあたって ドリームスFM インタビュー. 2025.8.15.
7. 山下裕史朗. 私のマインドフルネスと佐賀の自然 佐賀県小児科医報第52号 p1-2
8. 山下裕史朗. 祝辞 社会福祉法人あづみの森 設立25周年記念誌 p9

—研究費—

1. 安村 明. 文部科学研究費 基盤研究(A)「神経発達症を対象とした多面的評価システム開発と最適な支援方法の確立」 30万円(分担)

津村直幹 (昭和61年入局 久留米市)

—総説—

1. 津村直幹. 予防接種最新情報 ～こどもにも大人にも必要なワクチン～. 八女筑後医報 令和7年8月号 No.428 p13-21

—講演会・セミナー—

1. 津村直幹. ワクチン接種の最新情報～子どもにも大人にも必要なワクチン～. 令和6年度 奈良県市町村看護職員協議会予防接種研修会. 2025.1.23 (橿原/web)
2. 津村直幹. HPVワクチンの現状と課題 ～小学6年生から接種する意義～. 宮崎県HPVワクチンセミナー. 2025.3.12 (web)
3. 津村直幹. HPVワクチンの現状と課題 ～小学6年生から接種する意義～. 宮城県HPVワクチンセミナー. 2025.3.13 (web)
4. 津村直幹. 予防接種に関する最近の話題 ～5種混合ワクチンを中心とした乳児期ワクチンの重要性～. 第28回九州外来小児科学研究会 ランチョンセミナー. 2025.3.23 (熊本)
5. 津村直幹. HPVワクチンの現状と課題 ～小学6年生から接種する意義～. 八幡産婦人科医会・八幡小児科医会・八幡内科医会合同例会 HPVワクチン学術セミナー. 2025.4.10 (北九州)
6. 津村直幹. 定期接種化5年を迎える日本：ロタウイルス胃腸炎について改めて考える. こどものワクチン Online セミナー. 2025.5.15 (m3.com)
7. 津村直幹. HPVワクチンの現状と課題 ～小学6年生から接種する意義～. 久留米内科医会学術講演会. 2025.5.22 (久留米)
8. 津村直幹. HPVワクチンの現状と課題 ～小学6年生から接種する意義～. 大分県小児科医会学術講演会. 2025.5.29 (web)
9. 津村直幹. 予防接種最新情報 ～こどもにも大人にも必要なワクチン～. 八女筑後医師会予防接種研修会. 2025.6.12 (八女)
10. 津村直幹. HPVワクチンの現状と課題 ～小学6年生から接種する意義～. 金沢市小児科医会学術講演会. 2025.6.24 (金沢/web)

11. 津村直幹. HPV ワクチンの現状と課題 ～小学6年生から接種する意義～. HPV ワクチンセミナー 2025. 2025/7/23 (那覇/web)
12. 津村直幹. HPV ワクチンの現状と課題 ～小学6年生から接種する意義～. HPV Vaccine Seminar in Osaka ～大阪から子宮頸がん撲滅のために～. 2025.8.9 (大阪)
13. 津村直幹. 予防接種最新情報～ with コロナで変貌する感染症の流行とワクチン. 令和7年度 小郡三井医師会予防接種講習会. 2025.10.2 (小郡)
14. 津村直幹. with コロナで変貌する感染症の流行とワクチンの重要性. 令和7年度久留米医師会予防接種講習会. 2025.12.11 (久留米)

長井健祐 (平成1年入局 久留米市)

—国内学会—

1. 石和田稔彦, 清水博之, 角谷不二雄, 和田紀之, 高野智子, 坂田葉子, 佐藤 勇, 山口禎夫, 片寄雅彦, 浅井雅美, 長井健祐, 越智史博, 蓮見純平, 小児RSV患者観察研究グループ. 日本における3歳未満の小児RSV感染症患者を対象とした前向き観察研究. 第57回日本小児感染症学会総会・学術集会, 2025.11.9 (舞浜)

—シンポジウム・ワークショップ—

1. e-ラーニング外来小児科Q & A. よってたかって生涯学習／診療の質を上げる. 第34回日本外来小児科学会年次集会. 2025.8.30 (高松市)

牟田広美 (平成9年入局 久留米市)

—論文—

1. Muta H, Noda T. Survey of Secondhand Smoke for 3-Year-Old Children in the Current Era of New Tobacco Products. Acta Paediatr. 2025;114(6):1405-1413.
2. 牟田広美, 杉村 徹, 青木才一志, 田川正人, 平松裕之, 鈴木竜太, 他. 5価ロタウイルスワクチン(ロタテック[®])接種直後の吐き出しによる便中ワクチン株排泄への影響. 外来小児科. 2024;27(4):465-469.
牟田広美, 長田伸夫, 峯 真人, 久保田恵巳. プライマリ・ケアにおける生後3か月未満児の急性呼吸器感染症の病原体調査. 外来小児科 (印刷中)
3. 西村龍夫, 牟田広美. プライマリ・ケアでの食物アレルギー予防. 日児誌. 2024;129(12):1421-1431.

—著書—

1. 牟田広美. 禁煙指導. 福岡地区小児科医会乳幼児保健委員会, 編. 乳幼児健診マニュアル 第7版. 東京: 医学書院. 2025: 130-131.

—講演・シンポジウム—

—国内学会—

1. “現場の気づき”をエビデンスにー日本外来小児科学会のリサーチサポートシステムー. 第34回日本外来小児科学会年次集会. 2025.8.30 (高松)

—研究会・学会地方会—

1. 肌を守ることは子どもの未来を守ることーアレルギーマーチ予防のため当院で行っていることー. 第370回筑豊小児科医会勉強会. 2025.9.4 (飯塚)
小児科外来にMultiplex PCRを導入して見えたこと: 変わったこと、変わらないこと. 日本外来小児科学会第12回生涯学習セミナー. 2025.10.19 (東京)